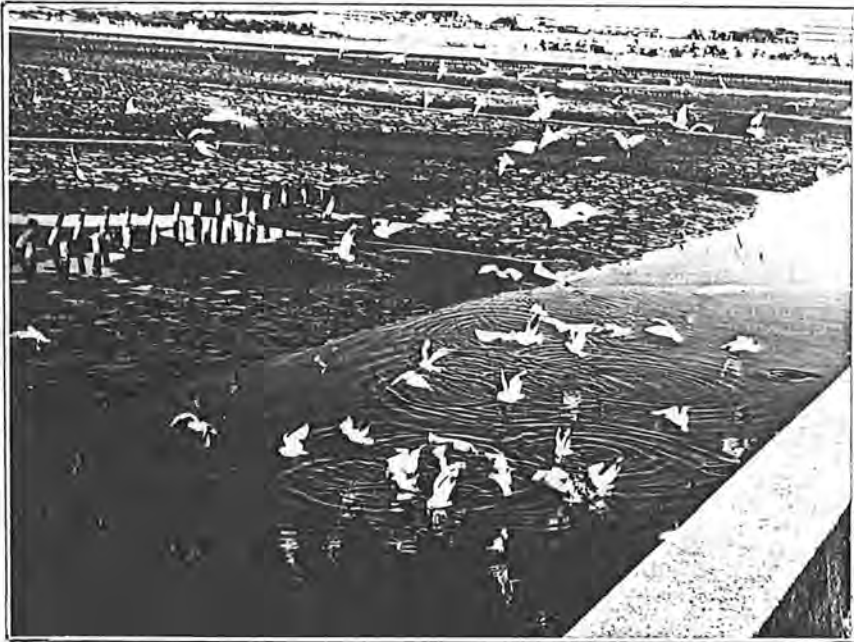


人呼んで、「パンのミミのサンタクロース」となりぬれば・・・

このような体験を届け、少しでも、一人で多くの方に、干潟を理解してもらいたい。



私達は、通りがかりの人、散歩の人、特に主婦と子供に参加してもらっています。

所は、谷津干潟の近くにある秋津団地という所のシヨッピングガーデン「ビバ50」の中にあるパン屋さん、「ヤマザキ」であるのである。これが日課となっている。

「ヨォーイシヨッ」とばかりにかつぐ程、大きな袋にいっぱいおもちを、シヨッピングセンターの通路をノックノックと歩いて来るのである。これが日課となっている。

大きな袋を肩にかけ

大黒様が通りかかるとのである。

「ヨォーこんにちわあー、あのお、パンの

ミミありますかあ。今日と、まじ日、ど

うもすりません・・・、わあ、こんなに

い。ぱいですかあ、うんしいなあしと。

「ヨォーイシヨッ」とばかりにかつぐ程、大きな袋にいっぱいおもちを、シヨッピングセンターの通路をノックノックと歩いて来るのである。これが日課となっている。

ふかんど

オ281号

1984.1.13

谷津干潟愛護研究会
〒270 習志野市谷津三丁目七番五号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

ふかんど・・・干潟から北へ向かい、河で削り出たようにくぼんでいた頃の谷津干潟の名前。

冷たい寒気で手がかじかむ。ハーツと息をかけては、こすり合わせながら手を温める。

透き通るように晴れわたった真冬の干潟の水面。ツピーッノとばかりにシギのさえずりが、凜乎として、辺り一面に響きわたる。

そんな時、「オォー~~~~イッ、オォー~~~~イッ！」と叫び、呼びかけるのだ。そして同時に、千切ったパンのミミを、手にいっぱいかんで、パーッと空に投げ上げる。パラパラと水面に散らばって落ちてゆく。

すると、遙かむこうから、これを目敏く見つけた一羽のユリカモメがグングンとこちらに向かって飛んで来た。スーッと、何の音も無く、海面に浮かんだパンのミミの上を、偵察すること一、二回。二、三度、試すが如く水面スレスレにミミをついばむ恰好をした。そして、ピシャッ！と水音を立てて、パンのミミをクチバンですくい取った。するとどうだろう、遠く群れなす白い塊がゴソゴソと崩れ始め、次から次へと、又、あちこちから、続々と集まって来るのだ。

バケツ一杯分のパンのミミが、ギャーギャーという叫び声と、バジャバジャという水音の中で、あっという間に無くなってしまった。

「そのお恰好、まるでサンタクロースみたいだねえ・・・」と言われながら、もう半年近くになつた。そして今日と、会員と共に、干潟とメガ力の池へパンのミミを投げにゆく。

「ヨォーイシヨッ」とばかりにかつぐ程、大きな袋にいっぱいおもちを、シヨッピングセンターの通路をノックノックと歩いて来るのである。これが日課となっている。

「ヨォーこんにちわあー、あのお、パンのミミありますかあ。今日と、まじ日、ど

ユリカモメ評付けの記—森田三郎

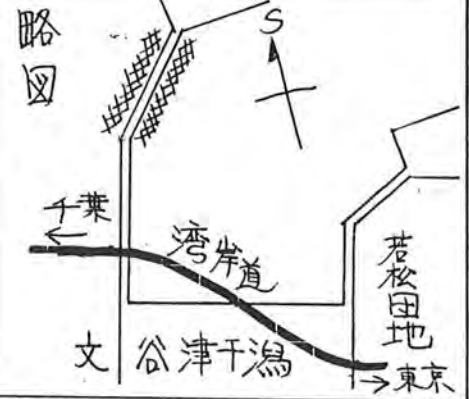
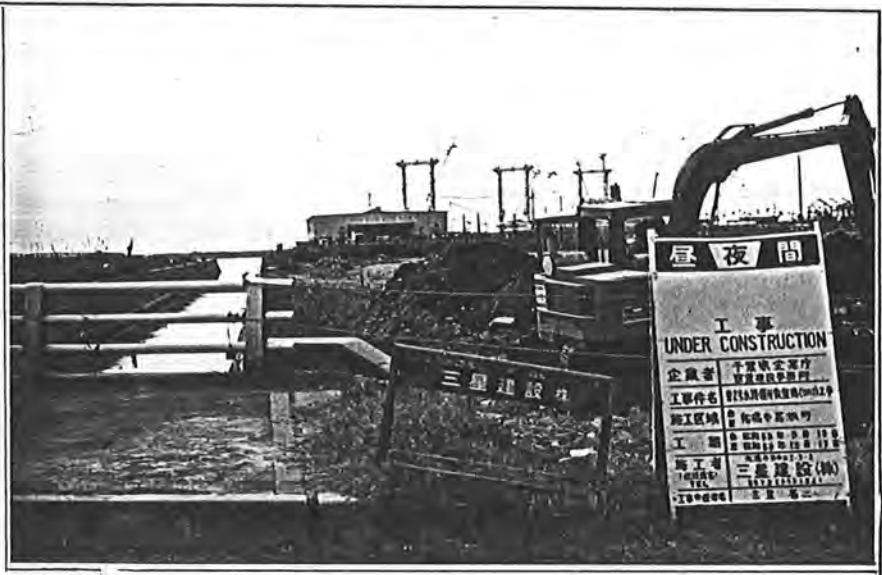
万葉集に出てくる「都鳥」とは、ユリカモメのことです。

師走の霧雨は冷たくも、主婦たちはゴミ拾う(谷津干潟クリーン作戦) 進む環境整備(9) 対企業方

お願い。買い物で使いました大きめの袋があったら、お持ち寄り下さり。

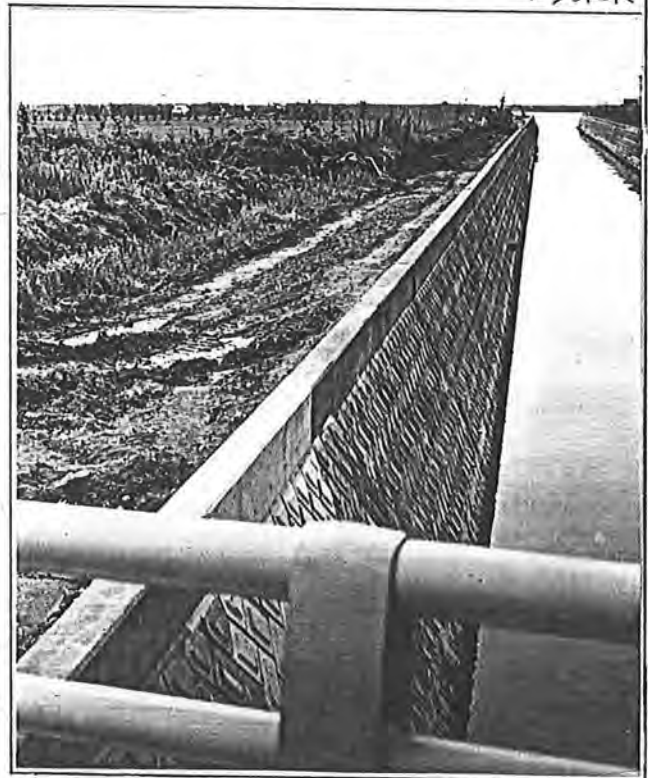


かつてゴミの山だったここは今、常に30~40羽のカモがエサをとっている。



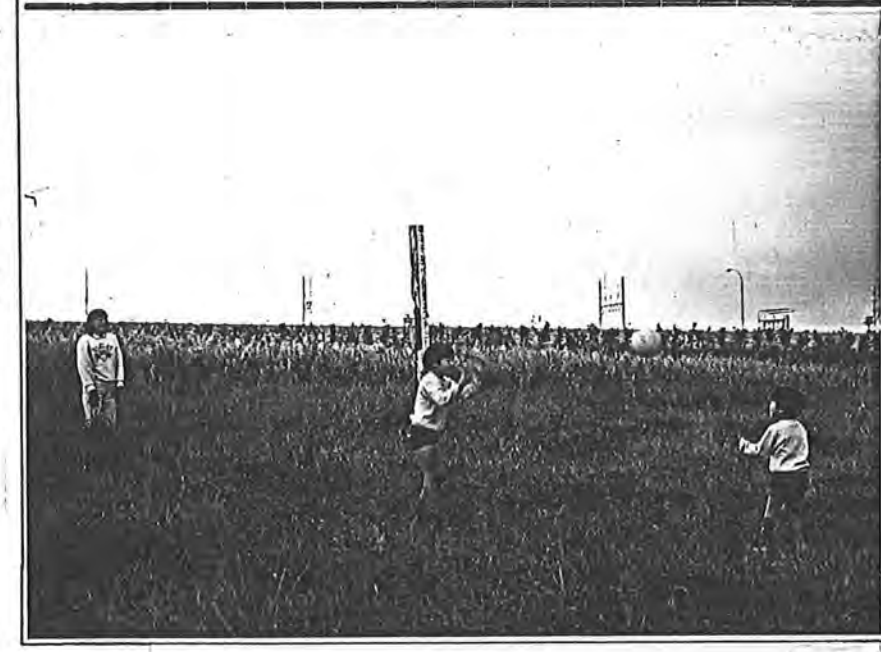
水路は動脈

入難を排し、かつ乗り越えても、水路、それを守らねばならぬのだ。



「生命線」、動脈だからだ。雨の日も風の日は、パトローは続く。そして今日もー。

12月20日(火) この日
あいにく、冷たい雨が降っていました。
クリーン作戦がひとしきり済んだあと、手作りのケーキと熱いコーヒー・紅茶をこづかいになりました。参加した主婦の一人が家で作り、届けてくれたもの。ありがとうございます。



自然緑地のボール投げ
時々干潟に来る女子である。やはり、こういう所に来るとボール投げなどして体を動かしたくなるのだらう。
今は真冬。春になればみんなここでお弁当をひるげろ。

← クリーン作戦に参加している宮川さん女子です。

あっちでど一つ。こっちでど一つ。地を這うが如く谷津干潟を守り育てよう。

ふかんど... 近くに拖大工があつて、新しい漁船が出来ると大漁旗をいっぱり立てた頃の、谷津干潟の名前

ふかんど

オ282号

1984.2.23

谷津干潟愛護研究会
〒25 習志野市谷津三丁目七番地E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9

削られゆく表面のドロ

谷津干潟は今、全域にわたって、ゆっくりとそして少しずつ、へドロ状のドロが削られていつている。

粒子の細かい、水に沈みにくい、つまり空気や水の通りの悪いドロである。漕を中心、又、新しく漕溝が作られながら、流水、削られてゆく。

つまり、谷津干潟は、場所においてその遅速や程度の差こそあれ、全体的に、又部分くにおいて、泥質から砂質の多い干潟へと変りつつあるのだ。

この現象は、調査と観察によって、長年にわたって詳細に確認されてきた。それは、昭和51年頃から、初めはゆっくりと起つてきたのである。当時は、東西の水路二本と

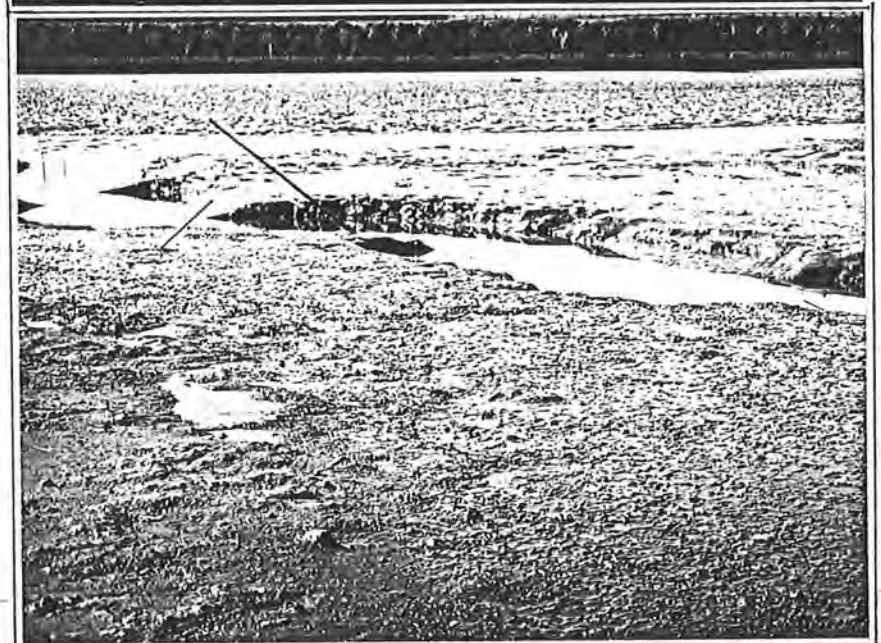
まよく整備されておらず、工事関係のコンクリートやゴミ、土砂が大量に水路の中にあつた。特に、西側水路の海への出入口は5本のヒューム管によってなされていた。すなわち、首を半分締められていた状態だった。

”水路は、干潟の動脈にして、主殺す奪の権を握るもの”

が、野鳥関係者や他団体はこれを見逃して、野鳥を始め、干潟のまき物は干潟によって支えらる、そして干潟は、水路によって支えられるもの。干潟それ自身と、干潟の諸機能の作用を司る、潮とろう、血液、あるいは、酸素を送り込む水路なるもの。我々は、この二点に的を定め、出来る限りの、あらゆる方法と手段を更行することに、それこそ全身全霊を尽くすことになったのである。それは困難ではあるが、不可能ではないと信じて。

は困難ではあるが、不可能ではないと信じて。

甦えりつつある谷津干潟



谷津三丁目の前「谷津干潟クリーン作戦モデル地区」の所 1月20日

カモを保護しました、子供産はみんな抱きました

破傷風の注射を考えています



秘津小学校五年の、左から小泉君、中村君、飯田君の三人です。カモの体って、こんなにやわらかく温いのかって、びっくり。

秘津小学校の玄関口。彼女が抱いているカモを見つけた下校中の子供産。群がって来ては、てんでに手をのばすのでした。

カモはヒドリカモです



干潟で元気に飛び立つ

去年の夏でした。幕張の埋め立て地へメダカをすくいに行った時、草むらの中の水溜まりで保護したものです。傷ついた様

子はなく、ただ弱っていたらしい。会員の中村さんの紹介で、秘津小学校の久保さんに頼もうとしたが、丁度帰ったばかり。その後、二日間、中村宅で保護しました。干潟で放つたら、元気に飛び立ち、群の中へ一直線でした。

← 1983.7.20

クリーン作戦に参加している地元主婦からの提案

干潟のすぐ近くにある、京成サンコーポにお住まいの種田さんや松枝さんから、それとずっと以前から強く言われていました。心配してくれて、とってどう外しく思っています。

ゴミと言ったとき、紙くずや空カン、ビニールだけならいざ知らず、鉄板、鉄骨、ワイヤー、ガラス、コンクリートのかたまり、流木など、いろんな発射を引き上げるのであれば怪我をすることが多いのです。実際、ナマ傷が断えません。男子ほどでは

ないにして、主婦や年配の方が、草むらの中で目を突っついたり、ゴミを持ち上げたり引っぱったりした時に、砂やドロが飛んで目に入り、目かはれてしまうといったことがあります。

森田自身は何回も勧められていたが、「面倒臭いので、殆んど眼中におかなくていい。が、考えてみれば、ボランティア作業にとって、「事故」への対応は重要にして必須のことなのです。保護のことはかり考えていてはいけないのだと思っただ。

振り返ってみるに、今まで、よくぞこれと言った事故もなく過ごして来たと思う。私産とずいぶん危険な、大胆な行動をして来たものだ。

(種田さんが、注射をしてくれる所を捜しています)

小かんじ...大漁旗を立てた新しり船は、沖で神主に拜んでとらり、黒ムの人だかりの桜橋へ帰って来て、紅白の

ふかんど

号 283

1984.2.2

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津三七 剛莊E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費 年2000
創立 1974.12.9

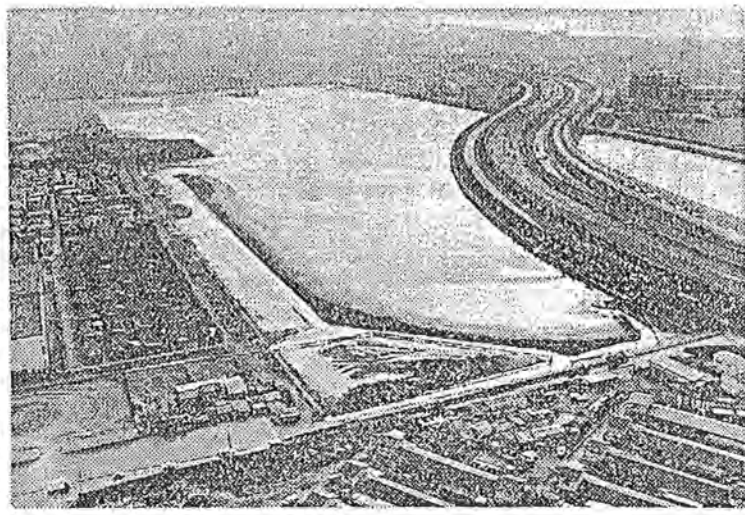
干潟に初の野鳥の聖域

開発が自然保護をめぐって議論が続いていた東京湾内奥部唯一の自然の干潟「谷津干潟」(千葉県習志野市)が、わが国初の自然干潟サンクチュアリ(野鳥の聖域)として保護されること十六日までに決まった。五十九年度予算に公害防止事業団が要求していた谷津干潟整備四カ年計画を大蔵省が大方で認め、初年度事業費として約二十五億円を計上する方針。地域の野鳥愛好者や自然保護団体が十三年前から懸命に続けてきた訴えが、行政を動かした。谷津干潟は整備終了後に環境庁で開設鳥獣保護区に指定することになっており、全国の干潟保護運動に大きな影響を与えそうだ。



整備4カ年計画、予算計上へ 通じた「保護」の訴え

々と続いていたが、埋め立てるに改めることによって水質・工場地帯などの造成によりを浄化しようという作戦。急ピッチで減少。いま残って 公害防止事業団は五十九年度の六十二年度までの四カ年間に約百三十三億円をかけた都市公園を兼ねた「野鳥の整備計画は、干潟の南北西側 桑園をつくり出そうと計画と西側の一部の護岸沿いに幅 五十九年度は二十五億円を六十から三十億の緑地帯、東 蔵省に要求していたが、ほほ



ては進行し、さらに湾岸道路・東関東自動車道(高架式)がつくられ、結局最後まで残ったのは大蔵省所有の国有地約三〇万平方メートルだけとなった。環境庁は五十二年に、残された干潟を開設鳥獣保護区に指定する方針を決めたが、地元習志野市は同市南部の公共施設用地と干潟に流入する生活排水による悪臭問題の同時解決をねらい、埋め立てて小学校や公営住宅、下水処理施設などを建設することを計画。大蔵さんらは保存を訴える運動を粘り強く続けた。

谷津干潟と埋め立て地にかま 高速道路の谷津干潟 全額認められた。谷津干潟を守る運動が起き たのは谷津周辺の埋め立てがピークだった昭和四十六年。近くに住む出版社勤務、大浜 潤さん(左)や新聞販売店員、 森田三郎さん(右)たちが「干 潟の干潟を守る会」を結成(保 存のための請願署名集めなど) を始めた。その間にも埋め立て

うれしいお知らせ
まずはよろこばしいことです。
すでに、多くの方は、テレビや新聞
でご存じかと思ひます。
私達が、一日とて、四六時中夢み
なりことはなかつた「谷津干潟の保
存」が決定しました。こう、書ける
日が来るのを、ご本程待ちに待ち、
想ひ焦がれ、そして念じて来たこと
だらうか...
過ぎしこの方の、あまたの想ひ出
と感慨をこめ、会員の皆様には感謝
と御礼を合わせて、謹しんで御報告
申しあげます。

実に、会員のみならず、行きずり
の人、名前や顔すら存じあげない多
くの人の協力があったことを憶え
て頂きたい。その数といい、その量
といい、谷津干潟保存にあたっての
貢献度は、ほんとうに、会員以外の
人産のほが、遙かに大なるものか
あります。

谷津干潟は、想うに、天よりのあ
ざかりごのにして、のみならず、そ
の努力や働き、夢見る力や祈りすら
ぞ、さしかしたらさうではなりだろ
うか。123、夕暮れの干潟にて。

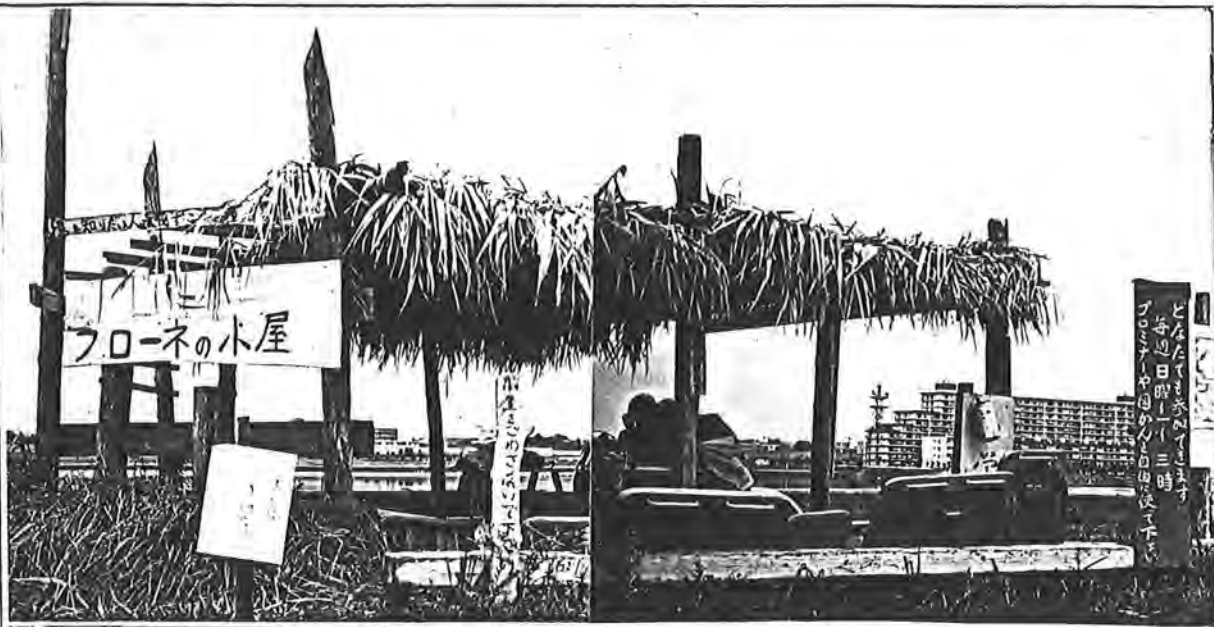
谷津干潟を自然教育園に、それは、10年前から始まった。

谷津干潟の愛

...その昔、ふかんどはオレを育ててくれた。そして今、オレは大人になった。今度はオレが育てる番なのだ...

ひとりで多くの方の観察・参加を希望しています

日蔭のヨシは、フローネの小屋だけでないよ



この「オイ」を育てたい

「渡り鳥や自然と融れ合おう」

と言つてと、その手段なり方
法がなければいけなり。

幸い、協力してくれる人が増
えてきています。主婦が近所の
主婦たちを、子供は子供で及産
同士、あるいはクラスメイトと
さそい合つて行つていゝのです。
時向は二時頃が最も良いとの
こと。皆さん、列を成して自転
車でいくような。パン切れを
いばむユリカモメを見ようと、
私産のことを知つて、来て待っ
ている市民も増えて来ています。

見た人、午後一時半と二時、津田沼高校の所へ。

↑1983年9月

今年で五年目

この、土人小屋、
如きフローネの小屋
と、一世が54年が誕
生してから、五世に
なりました。

うれしいことに、
初めはイタズラが多
かったのに、年々減
つて来ました。いつ
の向にか、谷津干潟
のシンボルのひとつ
にもなり有名です。



去年の夏中、暑さをさえぎる為
このスタイルで通しました。車で
の中の涼しさ、おすすめてします。

1983年9月

餌付け順調 ユリカモメ千羽

谷津干潟愛好会の森田会長

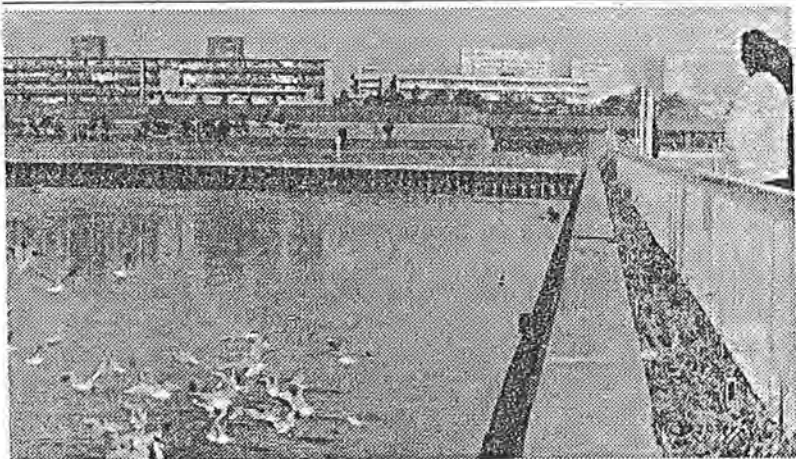
「野鳥に触れて自然守つて」

「オイ、オイ。谷津干
潟愛好会の森田三郎会長が
寒空に叫び、同時にちぎったパ
ンを空に投げる。争うように、
約二千羽のユリカモメが群れを
なして、一面に水面のパンをつ
いばみ始めた。習志野市の谷津
干潟で、いまユリカモメの餌
（え）付けが順調に進んでい
る。

「オイ、オイ。森田三郎会長が餌付けに取
組んだのは三年前だ。比較的警
戒心の薄いユリカモメを選ん
だ。毎日せつせつとパンを投げる
森田さんに、二年目の冬、ユリ
カモメもようやく慣れてきた。
その矢先、森田さんを落胆させ
たのは子どもたちのイタズラだ
った。森田さんのまねをして、子
どもが「オイ」とユリカモメに
呼びかける。ところが、いつも
のパン切れに代わつて投げつけ
られたのは石つぶてだった。逃
げまどうユリカモメの姿に、い
たたまれなくなった森田さん
は、餌付けを中止した。
そして三年目の冬を迎えた。
「貴重な干潟を守るには、野鳥
との融れ合いを通じて、一人
でも多くの人に理解してもらわ
ねば。森田さんは昨年暮れ、再
度ユリカモメの餌付けに挑ん
だ。」

毎日、午後一時になると森田
さんと同研究会の中村登喜さん
（心が干潟に現れ、パン切れパ
ケツ三杯分を水面に投げる。年
が明けてから、ユリカモメは森
田さんの声を聞きつけるように
なった。そして馴つて水面のパン
切れをついばんでいる。盛ん
な食欲だ。
いまでは子どもたちのいたずらも
なくなった。
森田さんは「ようやくユリカ
モメの餌付けが出来るといにな
った。毎日、パンのミミを譲っ
てくれた団地のパン屋さんに感
謝しています。これから五月に
かけて最盛期で、ユリカモメは
約五千羽が飛来します。多くの
人に餌付けしたユリカモメを乗
しんでほしい。そして野鳥を、
干潟を理解してほしい」と話し
ている。

今はすべて、近くの秋
津団地に住む主婦や子供
達にお任せしてあります。



群れをなして水面のパン切れをついばむユリカモメ
—習志野市の谷津干潟で、

朝日新聞

1984-1-17

小かんじー、潮の香で、自異がフーンとして、痛りくらになつてしまった頃の谷津干潟の名前

ふかんじ

オ284号

1984.2.9

谷津干潟愛護研究会
千代 習志野市谷津三十七 鴨荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

谷津干潟が「野鳥の楽園」に

整備計画認めらる

政府予算案 事業主体なお未定
総額15億円

習志野市の谷津干潟を都市公園を兼ねた「野鳥の楽園」にして保護して行こう、という公害防止事業団の谷津干潟整備四カ年計画が二十四日、政府予算案の編成過程で認められた。総事業費百五十七億円を投じて野鳥観察舎や緑道を建設し、整備が終われば県が習志野市に移管して、国設鳥獣保護区に設定する予定だ。事業費は同事業団が立て替えて、委託する事業主体が支払うことになるが、問題は肝心の事業主体が県になるのか習志野市なのか決まっていなかった。今後、この点が論議を呼びそうだ。また干潟の保護を訴えて来た自然保護団体も、「ようやく運動が実つてうれしい」と歓迎しながらも、「整備計画の青写真を見ないことは、本当に干潟の保護になるかどうかかわからない」と慎重な態度を崩していない。

谷津干潟では、一年間に約二百種、ピーク時の春には一万羽を超える野鳥が飛び回る。整備計画は、この干潟に緑地帯と野鳥が羽を休める「緑の水辺」を整備するとともに、野鳥観察舎などを建設し、都市公園型の野鳥の楽園にする。また、生活排水は循環方式で、干潟への流入を防ぐ計画だ。

問題提起をすかもしれないと語っている。

干潟との対話

「随感」

それは、断えぬゆなき活動と思考の連続であり、ゆりがすなわち答えであり、又、答えがすなわちゆりである。

大にして強力なる実践力は、より深く沈潜したその瞑想によってこそ、支えられ、継続され、湧くものである。

くものである。例えば、主観と客観。これらは使法にして、分けたものであろう、分かれ

たものでない。彼と我、すなわち

干潟と我々。孤独と静寂

に在りて想う時、自分自身が透明になつたとき、度々体験した。対話は、すなわち、その手法なのだろうか。

野鳥の聖域作りローリー

国の予算「谷津干潟緑化」を計上

新年度予算案で、習志野市の外郭団体・公害防止事業団が要求していた「習志野地区共同福利施設造成事業」が、二十四日、大蔵省に認められた。習志野市にある「谷津干潟」と、そのわきを通る東京湾岸道路沿線の緑化事業を行い、公害緩衝地帯としての機能を果たせる一方、野鳥の宝庫として知られる谷津干潟については、「バード・サンクチュアリ」(野鳥の聖域)として保護しようというもの。四カ年計画で総事業費は百五十七億円。五十九年初年度は、谷津干潟関係一千五億円、湾岸道路沿線関係十四億円が予定されている。計画の中心となる谷津干潟は、習志野市の南部、京葉道路と東京湾岸道路に挟まれ、面積四十ヘクタール。開発が著しく進む東京湾岸で自然の面影を残す、最後の干潟、といわれている。野鳥の宝庫としても知られ、カモやシギ、チドリなどが群れて、春のピーク時には一万羽を超す鳥が見られる。しかし昨年、周辺の埋め立てが進み、住宅団地などが出て干潟に汚水が流れ込み、悪臭などが問題になる一方、野鳥愛好家からは「自然の宝庫をなんとかして」と保護を訴える声が出ている。計画では、その干潟の周辺全長三キロメートルの緑地帯を設け、遊歩道とする。干潟そのものは立ち入り禁止とし、鳥たちが自由に生息できるように、「観察所」を設ける。

計画達成の四年後に、同事業団は、干潟を県に譲渡し、県立公園となる。一方、習志野市では、干潟を「国設鳥獣保護区」に指定する予定。

読売新聞

“失意泰然、得意冷然”。確か新島穰？。いい言葉だ。大いに服用させてもらおう。



新圃配産に行く前に、セウしく投げている。向い風なので、寒いなんのって...

今年は、5月の中旬頃まで、ユリカモメで大りに楽しんでしようと決め込んでいます。この頃は、カモまで横外てしまい、ユリカモメといっしょにパンのミミを食べています。今年の冬は、創年よりずっと寒いですわ。毎日とるよと大変です。



子供達には、一人で多め参加、協力してもらうことにしている。楽しんでますよ。

体重のことである。

それと、急に、わずか10日足らずの間にある。64kgより少しあった。1月下旬のこと。それまでは、61.5と62kgの宙をフロチヨロしていたのであった。

今まで、一番太つても、せいぜい62.5しかならなかった。

なぜ、森田は急に、自分の体重を計るようになったか。

今、千鳥の近くの、新圃販売店に勤務している。朝、3時半に起きている。新圃を配っている時、時々足とで氷がバリくと音を立てて割れる。

10年前、谷津千鳥は消滅するとの、埋め立てられるとの運命づけられていた。そ

の頃また新圃字真の片隅に立っていた、古い朽ち果てた杭、その並ぶ具合と立ち具合こそ、忘れどしな、あの幼き日々の「ふかんど」の、変り果てた形見であり、提示であり、深く大きな力を呼び起す小さな発火点でもあった。潜在能力の、ダイナモが、回り始めた。

これ以来、森田に因する全ての、諸々のものは、憑水た如く、失せし「小かんど」の用木たうんと、谷津千鳥保存なる「幻」の、その奴隷となつていった。想いを経緯と身の回りを洋世の義理と時を向もかも、約へと集中し、方向が定められ、動いてゆくのだった。

いつも疲れ、眼く、考えていた。働く人肉にとって一番大事な日、給料日が来ると忘れられていた、なんていう事が何度もあった。

10日間とは、谷津千鳥保存決定が新圃に出て以来のこと。体を安心するんですわ。

— どうも、保存決定の実感が湧いてこなりんだるあ —

パンの餌を投げる谷澤邦枝ちゃん(小五)

聞いたか見たか **効験**あったか、谷津干潟に **幸福**を呼ぶ黄色いハンカチの旗

小かんぞ...棒でたたいて、魚がらっぱり取れた頃の谷津干潟の昔の名前

ふかんど

第285号

1984.2.15

谷津干潟愛護研究会
〒75 習志野市谷津三七七 鶴荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 木村 田三郎

会費年2000

創立 1974.12.9

山中さん、

どうもありがとうございます。ご返信ありがとうございます。

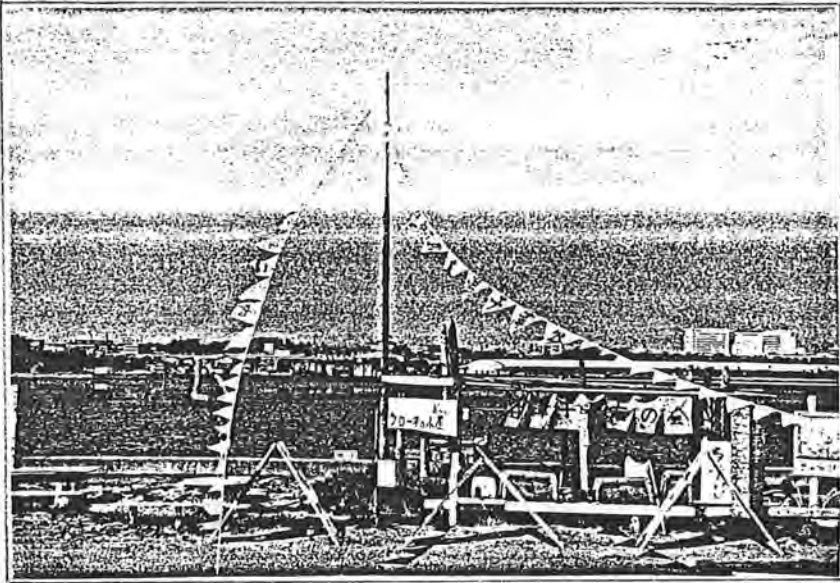
この旗、言うまでもなく、あの寅さんでおなじみの山田洋次郎監督の作、「幸福の黄色いハンカチ」からヒントを得たものである。

日曜、休日ごとに掲げて以来、とうか小かんぞ一年近くになる。勿論、これからとずっと掲げ続けていく決意である。

「旗を掲げれば、本当に効験があるかって?」、それはヤホというんじゃないですかあ。まあ、あんまり突きつめないで、私産の心を汲んで下さいよ。

おまじないや、縁起をかづきたり。そういう小供じみたこととしてまで、何とかして谷津干潟を残したいのである。溺れる者は、ワラを掴むと言っが、私産は、ワラを掴むから掴みたいのである。あやかりたいのである。

「こうやってれば、きっと、そのうち、何かいい事があるんじゃないだろうか。こうしてれば、私産を、何か励まされてよくなる気がするし、谷津干潟を守りたい」



という感慨みたりのとき生まれたり、改めて確認することによって、精神的戦線の立て直しにも役に立っただ、「いい」と、そんなふうに思いながら、カラッと滑車を回してロープをたぐり寄せ、スルルッと旗を上げ、風に旗めくその音を聞いていたのである。

卒直に言って、その場の実感として、旗を掲げ、なびくその外を見ると、案外心がシヤキッンとするものである。「よーし、がんばろう、い」とか、「ああ、今日と元気にやろう、い」とか、いい具合にである。

『ボランティア活動の基地にして、その目印として』

谷津干潟に幸福を呼ぶ、黄色いハンカチの旗はこの役割を十二分に果たしている。事実、黄色いハンカチの旗は、谷津干潟のまわりのどんな所からとばさきりと見えるのである。

「ああ、今日と誰かが来て、何かをやっていようなあ」とか、「あすこで、友の会の人かなんか来て、鳥の絵を並べて、いっような事を教えてくれないのだから」という事がわかったのである。そう、ここは、「谷津干潟の寄り所」として、着実に根付きつつあるのだ。

黄色いハンカチの旗には、「谷津干潟の精霊」が宿っているのです。

私達は、いかなる困難な、苦境の事態に直面しようとも、想いを込め、祈りを、力を込めて旗を掲げます。

自然保護の熱意突り

習志野の谷津干潟

決意新たに愛護研

市民ぐるみクリーン作戦へ

わか国初の自然干潟サンクチュアリに

習志野市の谷津干潟をわが「野鳥の聖域」とする計画
国初の自然干潟サンクチュアが来年度政府予算で認められ

だが、この朗報を心待ちにし
ていたのが、「谷津干潟愛護
研究会」森田三郎会長（
心、会員四十人。同会は十年
前の結成以来、市の埋め立て
計画に反対し、ゴミ拾いや野
鳥観察舎の建設などの自然保
護活動をコツコツと続けてき
た。会員たちの熱意が腰の重
い行政を動かしたもので、森
田さんは「これからも市民ぐ
るみで、グリーン作戦」を展
開していく」と決意を新たに
している。

谷津干潟は木更津市の小櫃
川河口と並んで、東京湾に二
つだけ残された自然の干潟。
約三万の広大な面積の中に
年間約百七十種の渡り鳥や野

鳥が飛来する。冬シーズンの
今は、ユリカモメやインシキ
が二、三千羽飛び回り、春の
ピーク時には一万余羽を越す渡
り鳥が集団飛来する首都圏内
の貴重な野鳥の宝庫だ。
ところが、谷津干潟周辺の
埋め立てによる宅地造成や学
校建設が昭和四十年代から盛
んになり、習志野市ではさら
に干潟を埋め立てて公営住
宅、下水処理施設などの建設
計画を検討した。このため
森田さんらは四十九年に
「谷津干潟愛護研究会」を結
成し、市や県に保存を訴える
一方、付近住民の「粗大ゴミ
置き場」と化していた干潟の
掃除を始めた。

森田さんの運動に共感した
近くの新興住宅地の主婦らも
干潟の清掃に参加。初めは二
一三カ月に一度ほどだった
が、三年前からは月に二回の
割合で流木、空き缶、壊れた
電化製品などを取り除く作業
を続けた。また、日本野鳥の
会東支部のメンバーも協力
し、手作りの水上野鳥観察舎
日には東京からもパトウォ
ッチャーが来るほどの見事な
自然の干潟に再生させた。

森田さんらの積極的な運動
に干潟保護の世論も高まり、
習志野市も埋め立て構想を凍
結。そして今年一月下旬、総
事業費百五十七億円の四年計
画で谷津干潟に野鳥の憩える

地域の人に支えられ

てこそ、サンクチュア
リ計画を生ききて来ま

私達は信じています。

毎日新聞 1984年2月17日
ひとつの事が根付くには、相当の月日がかかりました。

干潟のゴミ拾いをする谷津干潟愛護研究会の小学生メンバーたち



今は呼ばなくとせ
干潟に行って、立つだけで来るようにな
ったとのことです。思わず「ニカッ」と笑
いがこみ上げてしまっ
とのこと。
中村さんと谷沢さん
が、毎日せっせとやっ
てくれています。
雪の日も雨の日も干潟
に通っています。天気
の悪い日は、寒くて大
変ですが、そんり
巧徳はあるようです。
つまり、雪や雨の日は、



この頃は、カモまでか餌付けて横水てしまい、彼女らが来るのを待てりるのです。
カモメがぐっと大胆になり、手の届く位の所
を飛ぶんだようです。一時、6日連続、全く
姿を見なかつたのですが、2月10日に再びカ
モメの群が帰って来て、皆安心しました。

ふかんどー自然と鉄れ合おうとか、その価値だとかやれ文化遺産だとか言う、おどましいり考えに染まっ
 いなかつた頃の谷津干潟の名前

ふかんど

オ286号

1984.2.23

谷津干潟愛護研究会
 〒276 習志野市谷津三丁目五番五号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 木村 田三郎

会費 年2000
 創立 1984.12.9

自然保護団体として初めて

この度、谷津干潟愛護研究会は、自治会
 長、町会長、市議などの強い要請があつて、
 谷津遊園、特に緑地保存の為の請願書に名
 を連ねることになりました。とにかく、名
 前だけでも、是非お願いいたしますとのこと
 でした。

二度ばかり、「谷津遊園を守る会」の会
 合に請願書で参加した。正直言つて、どう
 見ても「運動」とは言い難いムードとこの
 実体だった。中心や方向と言うか、盛り上

りや、うねり、如きものが感ぜられないので
 ある。「守る会」関係者の顔ぶれは、実に堂
 々たるもの。我が愛護研究会なんか、とうて
 い物の数ではない。「守る会」の方には失礼
 だが、この鉄く、沈滞した感じの勢りの無さ
 は何故だろうかと思えた。森田個人の鑑み
 とこそそれは、炎々たる幻とヤル気、そして
 何ものにも征服されざる強力なリーダーの不
 在である。これを無にする使徒のいなること。
 何はともあれ、遊園の行方、愛護研究会
 と無関係ではいられぬ。森田さんは、名
 前が通っているから……と、いんちんおだ
 てにのって、名を連ねられました。以上。

谷津干潟とバラ園周辺を

県立公園にする為の請願書

全国でも有名な習志野市の谷津干潟が野鳥の聖域と
 して整備、保護されることになりました。人工の干潟
 が造成されている時代ですが、自然のままの干潟が保
 護されるのははじめてのことでもあり、地元でも期待
 されております。

ところが、この事業をになう主体が決まっていな
 い、事業内容に影響を及ぼすことが懸念されています。
 私たちは、習志野市の財政事情からして市立公園にす
 ることは望むべくもありませんし、谷津干潟の名声や
 立地条件等からも県立公園にしていたきたく、お願
 い致します。

また、この干潟に隣接するバラ園・遊園も六〇年の
 歳月でつちかわれた貴重な文化遺産です。その保存の
 ために習志野市は数年来努力しておりますが、これを
 一私企業が永久に保存することは不可能なことです。
 バラ園・遊園を干潟と合せて県立公園にしてください
 たく
 名の署名をもって請願致します。

請願人代表

平川 善三 (谷津三丁目第一町会長)

習志野市谷津三丁目一八番七号

- 請願人 森田 三郎 (谷津干潟愛護研究会会長)
- 小高 浩一 (谷津二丁目駅前町会長)
- 織戸 隆夫 (谷津二丁目東部町会長)
- 金子 一栄 (谷津二丁目西部町会長)
- 田村 芳友 (谷津二丁目菊田台自治会長)
- 矢野 卿一郎 (谷津二丁目東部町会長)
- 村山 喜作 (谷津二丁目西部町会長)
- 戸張 さと (谷津三丁目町会長)
- 鬼塚 勝恵 (谷津遊園ハイッ自治会長)
- 今井 順 (谷津幹線マンション管理組合理事長)
- 向山 昭二 (谷津四丁目自治会長)
- 三代川 吉五郎 (谷津五丁目町会長)
- 諸岡 信吾 (谷津五丁目第一町会長)
- 菅野 実 (谷津五丁目汐見台町会長)
- 田中 隆 (谷津六丁目町会長)
- 宮下 広行 (谷津六丁目第一町会長)
- 吉川 三男 (ソフトタウンニュー谷津遊園自治会長)
- 築澤 平治 (谷津七丁目町会長)
- 三代川 佐一 (マーブル津田沼管理自治会長)
- 瀬戸 栄一 (袖ヶ浦団地自治会長)
- 松岡 鶴美 (秋津第一住宅管理組合理事長)
- 小倉 延介 (秋津第二住宅管理組合理事長)
- 松沢 勇 (秋津四丁目町会長)

◎ 久しぶりたび、谷津干潟が保護運動なる苦難の道を辿る時、彼らのうち、一体何人の人がその長途の行脚に着くだろうか？

「有能の前に、神々は汗を置いた」。かの時を、そして今を、人々は可能性の戸の前で立ちすくむ。

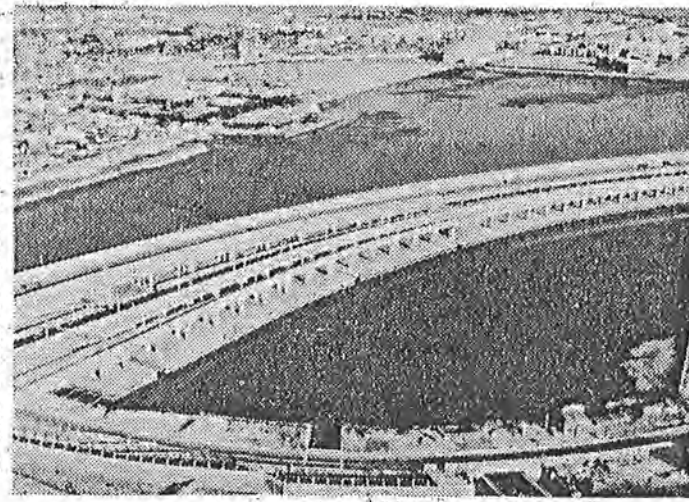
◎ 今まで干潟を「お荷物」としか考えていなかた人達と、ひと度干潟が動き出すとごらんの様にな名前がぞろぞろ...



清掃してくれて下さるのは、会員の中村容子さんです。(秋津)

トイレットペーパー、洗剤、たわしは会費から出ています。ご了解下さいね。

宙に浮く野鳥の楽園



「野鳥の楽園」造りが難航する習志野市の谷津干潟

習志野の谷津干潟整備計画が難航

頭越しと県・市反発

環境庁の外郭団体である公害防止事業団(信次清理事長)が「野鳥の楽園」造りの目玉として推進、五十九年度政府予算で初年度分三千九億円が計上された習志野市の谷津干潟整備四カ年計画がスタート以前の段階で難航している。事業費の一部負担を強いられた地元自治体や周辺埋め立て地への進出企業が財政難に加え、同計画の事前説明が地元で十分されず「頭越し」に予算化されたことに反発しているため。場合によっては事業そのものが宙に浮く可能性も出ている。

東京湾に面する谷津干潟は、とから、環境保護を求める声総額約三千七、四季を通じは強い。整備計画は、総事業費百五十二億円の野鳥が飛び回る。十七億円、五十九年度から四

年間に干潟周辺の約五十ヶ所を年間約三分の一に当たる約五十二億円で買収して緑化、水質汚濁を防止して「野鳥の楽園」造りを目指している。事業費は同事業団が一時立て替え、国、地元自治体、千葉県または習志野市、公

返済額は約百億円による。ところが、頭越しの予算化に地元が態度を硬化、県、習志野市がいずれも事業主体となるのを敬遠している。習志野市の三上文二市長は「計画は結構だが、財政的に厳しい現状では事業主体は県にお預けしたい」と逃げ腰。一方、県は降ってわいた時、地元にもって相談もなく金を出せとほもつてのほか(環境部)と反感を醸成。企業負担分をどう持つかも問題。というのも干潟周辺への進出企業は、市の方針で公害型でないのが条件となっており、現在は食品コンビナートや倉庫が主体だからだ。同事業団の平野武三帯任顧問は「事前自治体で十分説明しなかったのはまずかつ

千葉日報
1984.2.14

た。企業が公害型でなく金を出さないのなら、土地を造成して売った県企業庁に肩代わりしてもらおう方法もある」と弁明している。しかし企業庁側は「肩代わりなどんでもない」(同庁幹部)とキッパリ。超緊縮予算のなかで実現した整備計画は、そのすさんだだけが浮き彫りになっている。

日ごとパトロールする中で...
ひと口に千潟をパトロールすると言っても、毎日となると更に大変なんです。
特に水路は、最重要箇所です。油は本当に困ります。ゴミでしたら拾えますが、油は拾えないうです。今年に入って流失は3回目です。木枝が吹く中、私産は今日もひたすら、千潟を見まわります。

野鳥の楽園 流出油直撃

習志野市の谷津干潟で十三日、千潟と東京湾を結ぶ水路付近から油が流れ出した。谷津干潟環境研究会のメンバーが見つ

けて、県企業庁京葉建設事務所と連絡し、同事務所と市公害センターが油を採取、分析を急いでいる。同干潟は自然保護団体の運動でこの四月から公害防止事業団が五年間で約百五十億円をかけ、野鳥の聖域づくりに取りかかるとなっていた。油が流れ出したのは、水陸入

り口の土管(直径約七五センチ)が、今回は量も多い。ただ、いまのところ、この油が干潟に入り込み、油膜は幅約五十メートル、長さ約百メートルの帯状に広がっている。市公害センターでは「これまでも東京湾を往來する船舶からの廃油、家庭からの油が漏れた排水などで、微量の油が浮かんでこられる。

谷津干潟にバードウォッチングに来て、用を足すとしたらここしかないのです。
場所は、秋津5号児童公園。公園でトイレが使えないのはここだけ。他は全てイタズラや清掃不備のため、取り払われたり使用不能なのです。モラルが悪いのです。ここを放っておいたら、同じ運命になってしまう。もうなったら、現実的に困るのです。この日はとても寒かった。でも、やらなくっちゃあ。

ふかんど

★287号

1984.3.1

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津字七七 鷗荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

拝啓

私は、このたびの公害防止事業団による谷津干潟周辺整備回の手計画に
政府新年度予算が計上されたという報道に、谷津干潟の保存決定を心待ち
として一人として、まことに喜んでおられることと拝見いたします。

これまで、第四次及び第五次国設鳥獣保護区の手計画へのリストアップ
アバンサンプレーリ構想の発表、そして谷津干潟周辺の緩衝緑地整備計画等
種々な報道を目にし、耳にすまぬに、谷津干潟の保存と国設鳥獣保護区
設定とをいほと望んでまいりました。

その後も望んでいこうと、谷津干潟の保存が決定された今、私は貴方に
おし、是非ともお断りしたいとお願いいたします。それは、

谷津干潟の南側に、私達市民の要望により、千葉県企業庁から、干潟と
一体とした土地利用を目的として使用を許可された約三ヘクタールの自然緑地が
あることは既に公表されたことと存じます。

その緑地の東側は、水路際まで指定用地として造成されていますが、その造成地、
自然緑地に隣接した一部分を、小公園もしくは花壇等のようにして、多くの
市民に利用させていたいただきたいというつもりです。

仮設ならば、もし現在の県企業庁の計画通り、あの干潟の東南の指定地に
自然緑地との境界線ギリギリまで指定が建築され人が住むようになる場合、
自然緑地は、これまでと同様に「自然緑地であり得る」と出来てしまうのか？

指定が出来れば人が住み、人が住めば車等の往来も当然多くなり、これまでの
「自然緑地」としての環境は著しく損われ、鳥達の営巣の場も、これは不安定な地
ではなくなるとは目に見えてきます。

また、県企業庁では、現在使用を許可しては自然緑地部分を整備して
駐車場や花壇等を作ればよいとの見解ですが、果たして、むしろ三ヘクタールの
土地をそのように整備して、自然緑地としての機能を果せ得る部分か？

一体どれ程残されるのでしょうか？ 否、その部分は「自然緑地」として
言葉なくならざるではなってしまうのでしょうか？

言うなかりためには、自然緑地と指定用地との間に、クッション部分となるべき
スペースが充分あればよいのではなからぬかと思っております。

長い歳月と努力をかき、汗を流し、血のいじむ思いをしながら、この土地は、幸いに
とつたこの三ヘクタールの「自然緑地」を、私達は駐車場等のためには
一平方メートルたりとも削られたくはありません。

「整備」という名のもとに、今ある自然を人工的な施設に変換させることか
鳥や植物や人間にとって本当に環境を良くすることになるのでしょうか？

昨年、貴庁の発表されたアバンサンプレーリ構想では、公有地を買い取り
て、……と、いつか……と、今、私達の要望として、この土地は、幸いに
まだ民間には殆んど売却されておらず、県企業庁が大部分を所有し
おり、公園用地として、転用は充分に可能な状態です。

このように民間の所有にならなければ、買収には莫大な資金を要し
→ 干潟周辺の一市民として環境庁長官に訴えられたとの事。紹介します。

「私」を作った者

すなわち、「魂」を注入
する者である。

して、其れは、仏具師で
なければ、彫刻家でもな
い。又、絵師でもなく学者
でもない。

信者である。信者のみで
ある。信者をあつて、他の
何者でもない。

未だ見ざるよこの幻を、
己が全身に満しめ、血肉化
し、燃ゆるが如き信念とし
の行動にて、一心不乱にて

精進し、眼前に生ぜしめん
とし、具象化せんとする者
である。

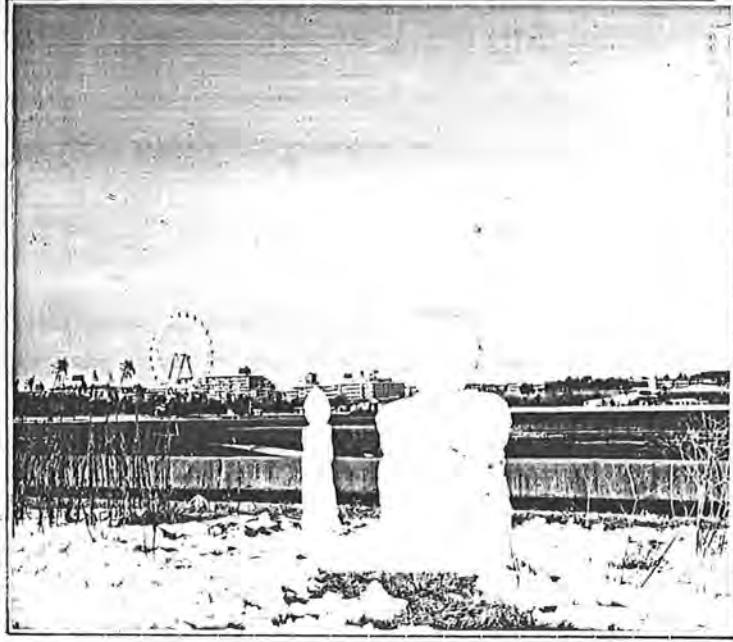
人間は、己が周辺に生起
するもの多くの物事の、そ
の彼方に、心の中に「新し
い地平線」を観る時、己れ

をしてその「用木」たぐし
め、「手段」と成すのは決
して不可能ではない。

我々が、何をさて措いて
と獲得すべきものは、努力
する能力である。

たとえ、全ての人が我々を良しとするも、それ良しの証明たり得ず。又、悪しとするも、それ悪しの証明たり得ぬこと同じ。

雪の後のベンチのそばに



二月十九日。前日はかなりの雪が降りました。でも今日は、うって変わった抜けた様な快晴でした。行ってみると、雪のクリーン作戦にふさわしい雪の像が作られていました。誰だっかな。

ルウ、お母とも為し得なくしてしまふぞう。
私達は、いれまて、ル
興企業にむし、この日、要するて、まいる、たが、聞か、入れまて、した。

谷津干潟とその周辺は今や、単にボードウォークのための野鳥の定庫である。だが、はたして、地域住民の憩いの場として、又、子供達にとって、自然に親しめる、絶好の場所として、定着しつづめてある。

あの調査によれば、昔のような泥んこ遊び、虫取り、魚取り等という自然を相手にする遊びを経験したことがない子供達の増加が、いかに……
現状のような環境におくは、やりたくても出来ない、やる場所がない。やういう自然に恵まれな環境に育つ子供達が、成長した時、果してどんなおとなになつていくのか……。

魚やカニとにむしれ、鳥や植物を観察し、生き物をじっくりと見つめた子供達の痛みと感動することの出来る子供達を育てることが、子供達にやういう環境をすくで、多くもよえてやることが、今の私達おとなの責務である。

自然緑地のメダカの池で、潮の引いた干潟で、泥にまみれ喜々として遊ぶ子供達の姿を見ることが、高速度道路とコンクリート住宅に囲まれた埋立地の中に、ほんのわずかに残された自然を、さしで、損なわず、すく、只、単に眺めるだけの干潟やサンクチュアリでなく、子供達にとっての体験の場とすることが出来るよう、干潟南側の住宅用地の一部を園用地への転用化を併せて、整備計画の検討を覚えていただきたいと、切に希冀するつもりです。

整備計画の音は、真ん中、知らぬままに思ひを連ねる、たが、致々は、私達地元住民にも、参加の機会が与えられることを、そして、一日も早い園地、鳥獣保護区設定を念じつつ、

昭和五十九年二月八日

環境庁長官
上田 総 殿
中 村 さん 子
(谷津干潟愛護研究会 会長)

干潟の魂

不思議なことであるが、干潟とそこにすむ生き物の身になりきった時、我々は己れ自身と外に付随するところの事柄は、背後に消えゆき、そして透明になつていくのを自覚する。

ひと度、その境地になりきった時、向うのは干潟の価値ではなく、干潟に対する己れの価値である。何をしてくれるのではなく、何をさすことが出来るかである。思念や注意が己れに向いていたものが、逆に、己れを失くして、或るものに向かうしめいのである。

すなわち、干潟の呼び声を入れた器になりきってしまったのである。器に成り得た者こそ、真に、「干潟の使徒」たり得た者である。

彼は知らない、己れの何たかかき。又知らない、己れととのよって来たところさ。彼は知っていつ。人から得られたものは又、人から奪わよるのであることを、世の諸法の約するやさを。

第100回 谷津干潟クリーン作戦を4月の第3日曜日に行ります。とん汁やおしる粉を作ります。

いろいろお世話になりました「いそしぎ」さま・・・淋しいです

ふがんど

第288号

1984.3.15

谷津干潟愛護研究会
〒507 習志野市谷津五七七 鶴荘E号
電話〇四七四一五一一五〇四四
文責 森田三郎

会費 2000

創立
1974.12.9

よく集まり

よく話したものでした

この度、アノ「いそしぎ」が閉店するこ
とになりました。御連絡申し上げます。

三月いっぱい、私達が大変お世話にな
った「いそしぎ」はなくなりませす。

場所は船橋印団地で、谷津干潟から南へ
まっすぐ五百メートルの所。その一角、船
橋・取手線へ通称オニ湾岸道路へに面して
いる。経営者は松永弘子さん。お兄さんが
東大の建築学の教授、村松貞次郎氏。毎日
ゴルフの「道見曼陀羅」の執筆者である。
御主人は、同じ印団地の事務局長としてい
る。御夫妻とも、静岡県清水市の出身です。
船橋印団地の為に、夫婦して大いに努力し



「いそしぎ」は地理的のみならず、むしろ精
神的にとて大きな支えになってくれた。

て来ています。

その名は、谷津干潟に因んで
付けられたのです

「いそしぎ」が出来たのは、今から五年前
の昭和五四年七月。その頃はまだ、建物の数
ごく少く、広い埋め立て地の中に、ぽつん
と出来た。周囲、とくに沖の方へは、見渡す
限りのヨシ野と草原でした。丁度かの有名な
セイタカシヤが営業し、ヒナが空へ飛び立つ
頃。全国でも最大規模のコアジサシのコロニ
ーが、繁殖の海原の如き、京葉港の終末期
でもありました。

日本中でもめったに無く、もう再び経験は
出来ない程の渡り鳥を中心とする恰好のフイ
ールドであった。ここ「いそしぎ」から始ま
る京葉港埋め立て地と、それに連なる幕張埋
め立て地の、いろんな地理環境が混在してい
た。「開発の谷向」のフィールドこそ、我々の
仲間が、「いそしぎ」を野外活動のベースキ
ャンプ、オアシスとしていた愛する所であ
りました。

春夏秋冬、雨の日風の日、炎天や冷たい北
風の日、大砂塵の日や陽光うららかな日にと、
我々は「いそしぎ」で待ち合わせ、寒さ合い、
そして体を休めたものでした。仲間だけでな
く、報道関係者もたくさん来ました。「いそ
しぎ」は、谷津干潟の保護に一役買いま
した。

「いそしぎ」のママさんと御主人は、この三月で印団地を共々辞めます。

経営者の松永弘子さんへ・・・私達、谷津干潟愛護研究会は、谷津干潟を残すことで、その御礼に替えるのです。

潮の干・満の時刻表を作成す

時刻表	
満潮	干潮
5:41	22:45
5:41	22:51
5:42	22:57
5:43	23:03
5:44	23:09
5:45	23:15
5:46	23:21
5:47	23:27
5:48	23:33
5:49	23:39
5:50	23:45
5:51	23:51
5:52	23:57
5:53	24:03
5:54	24:09
5:55	24:15
5:56	24:21
5:57	24:27
5:58	24:33
5:59	24:39
6:00	24:45

日出入時刻	
2月	3月
日出 7:17	日出 7:12
日没 17:22	日没 17:22

谷津干潟バードサンクチュアリ



千潟に来る人の為に

一日出・日入の時刻を
谷津干潟を利用する人
にとっては、干潮・満潮
の時刻を知っておくこと
は、どうしても必要です。

長年、どれ程の人達が
兵庫県の明石が東経135°、谷津干潟(西の端)は140°

潮の時刻を知らなければ に不便を感じ、観察や調査 の不便を来したことでし よう。

時刻を知らせるのみでな
く、干満を常に念頭に置き、
日入・日入の天文的なこと
を合わせて注意してほしい。

開発進む東京湾に



野鳥が渡来

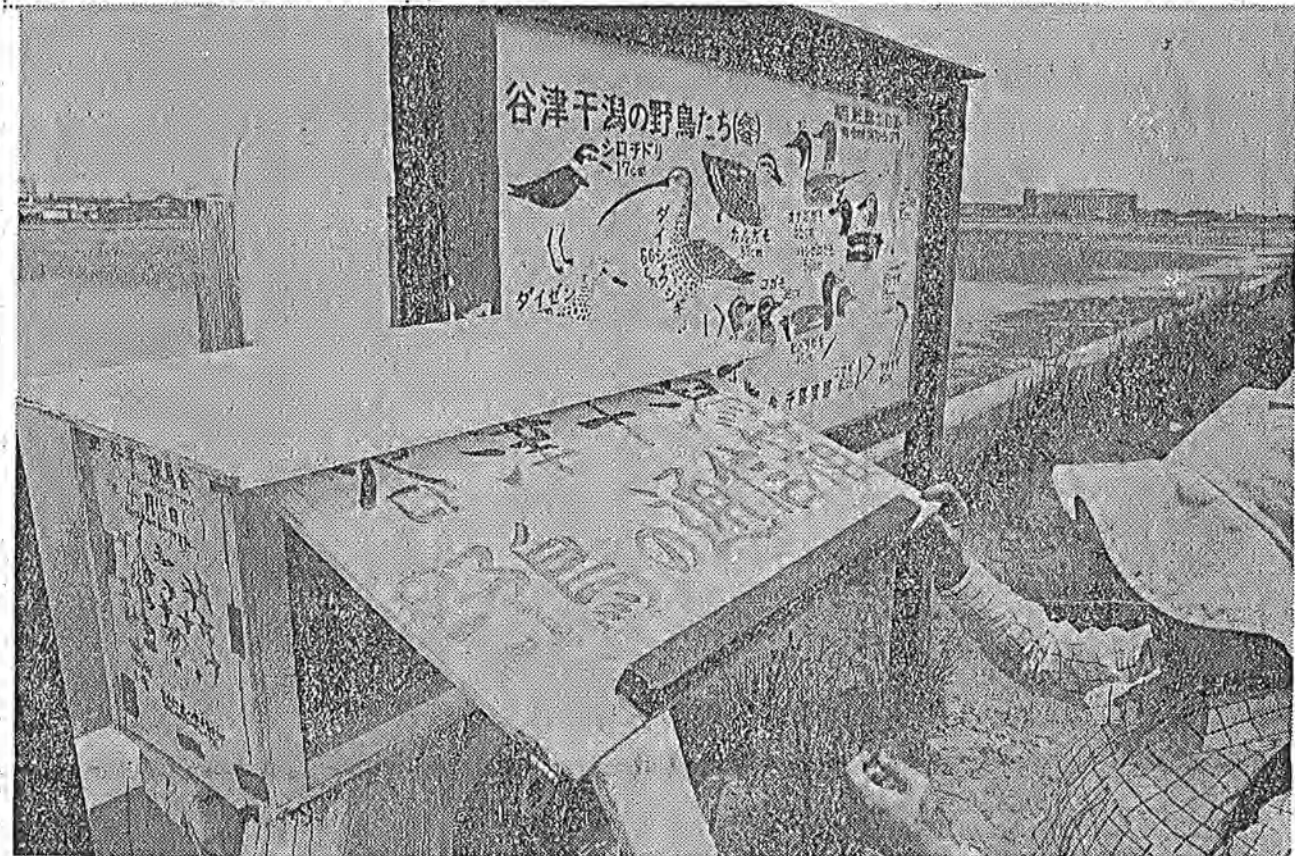
谷津干潟

春には二万羽の野鳥が渡来する。谷津干潟は千葉県習志野市の緑武線津田沼駅から南へ約二・三キロの距離にあり、広さは三三万平方メートル。いまユリカモメ、カモ類、シギ・チドリ類、サギなど約五千羽が飛び回りながらエサをついばみ、羽を休めている。ここでは一年間に約二百種類もの野鳥が観察でき、特にシギ・チドリ類は全国トップクラスの集団渡来地。春のピーク時は二万羽を超える野鳥の宝庫である。

今回認められた谷津干潟の整備計画は、干潟の南北両側と西側の一部に護岸沿いに幅十メートルから三十メートルの緑地帯、東西両側と北西の一角は干潟の護岸沿いに幅十メートル前後、浅く埋め立てて樹木を植え、野鳥が憩える「緑の水辺」として整備、ここを立ち入り禁止の「バード・サンクチュアリ」とする。

開発が自然保護かをめぐって議論が続いていた東京湾内奥部ただ一つの自然の干潟「谷津干潟」(千葉県習志野市)が、わが国初の自然干潟サンクチュアリ(野鳥の聖域)として保護されることになった。五十九年度予算に公害防止事業団が要求していた谷津干潟整備四か年計画を大蔵省が認め、初年度事業費として二十五億円を計上した。地域の野鳥愛好者や自然保護団体の懸命な保存の訴えが行政を動かしたもので、環境庁は整備完了後、国設鳥獣保護区に指定する。谷津干潟は都市の中に残されたまれな自然干潟であり、貴重な自然観察地として利用されるだろう。

谷津干潟や野鳥を見た感想などを紙に書いて入れるための「野鳥の通信箱」。看板の絵は谷津干潟に冬々ってくる野鳥。その後方は谷津干潟



千葉の干潟を守る会

などの粘りが行政動かす

予算に二十五億円を大蔵省に要求していたが、金額が認められなかった。干潟の埋め立ては昭和三十年代以降、急ピッチで進められ、いま残っているのは谷津干潟と木更津市の小櫃(おびつ)川河口の二箇所だけ。

谷津干潟を守る運動が起き、谷津干潟周辺の埋め立てが東関東自動車道(高架式)が

谷津干潟の一部を横切った建設され、結局最後まで残ったのは大蔵省所有の固有地約三三万平方メートルだけとなった。干潟のゴミ拾い百回もくり返す。環境庁は五十二年に、残された干潟を国設鳥獣保護区に指定する方針を決めたが、地元習志野市は同市南部に公共施設用地がないことや干潟に流入する生活排水による悪臭問題、ゴミの不法投棄による干潟の汚れなどの同時解決をねらい、ここを埋め立てて小学校や公営住宅、下水処理施設などを建設することを計画。大蔵さんらは保存を訴える運動を粘り強く続けた。特に森田さんはゴミ投棄による汚れが埋め立ての理由にされないようにと、地域の人たちと一緒に「干潟愛護研究会」をつくらせて干潟内の投棄ゴミや流木などを拾い集める作業を百回も実施。干潟は以前とは見違えるほどきれいになっている。

ついに習志野市の理解も得られ、こうした状況の中で谷津干潟を野鳥観察の都市公園として整備する計画が生まれ、最初難色を見せていた習志野市も、干潟に隣接する谷津遊園の跡地が住宅地などに利用できる可能性があることや悪臭問題の解決策が盛り込まれていることなどから、計画に理解を示している。

ところで、わが国の干潟は昭和二十年当時、約八万五千ポットあったが、この三十九年間に約三万ポットが失われた。現在、残っている干潟の大部分が九州の有明海と西部の沿岸と四国の海岸である。このうち有明海沿岸や宮城県・千葉県(仙台湾の南)、千葉県小櫃川河口などでも保存運動が続けられている。(毎日新聞社会部編集委員・川名英之)

谷津干潟クリーン作戦のあゆみ

ふかんど...学校の庭に、農家の人のヤブヤブが放たれ、草を喰っていた頃の谷津干潟。

ふかんど

オ289号

1984.4.11

谷津干潟愛護研究会
 千代 習志野市谷津干潟七 鶴荘五号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費年2000

倉川 立
 1974.12.9

49年
 11月
 ・一人。素手にて着手。
 ・クリーン作戦以前
 ・ゴミの山を十程築いては干し、新聞紙等で火を放つ。
 12月
 ・軍手、ひも、紙袋を使用。

50年
 1月
 ・この頃、市、県、国、町会など全ての所において、ゴミの引き取り手皆無。
 ・新聞配産に使用させて頂いた、五十CCのバイクにゴミの袋を一つ方いし二つ積み、市川市の新聞店に帰る途次、習志野、船橋、市川のゴミ集積所で、こっぴり隠すが如くもぐり込ましていった日々。時には人目につかない夜出かけていった。

50年
 4月
 ・ゴミをこっぴり出して、ゴミが、いつしか干潟周辺の人の知るところとなり、ゴミ袋ごと、清掃している森田の目前に、バ声と共に投げ返されてきた。
 6月
 ・不法投棄物につき、お返し致しますと書りた荷札をつけたり、サインペンで書き、こちらも又ゴミ袋を返す。押し由答、議論などの日々続く。
 10月
 ・重油使用す。
 ・干潟のゴミはゴミと言っても泥と水の為に中々燃えにくいので、缶のガソリンスタンドに事情説明・協力を得て、廃油・重油をもらって来ていた。

50年
 11月
 ・干潟の全周囲に看板を立て始める。仕事を終えた夜九時頃から午前二時頃まで、死んで毎日市川の自宅から通う。
 ▼この年、近年になり大寒波。
 ↑

51年
 1月
 ・「五年間実行」の決意を固む。清掃活動の成果の有無に拘せず。
 4月
 ・谷津干潟野鳥通信箱才一誕生。玉ヶ所に設置。中にノートとペンも入れた。
 5月
 ・干潟の全周囲に、百二十五本の看板立つ。
 10月
 ・試行錯誤の清掃活動において、必要道具を考え、探しにかけた。
 12月
 ・ゴミの山十二ヶ所から立ち登り炎と煙の為、消防署の注意すところ。なつた為か、県からクレームつく。が、そのまゝ意に拘せず続行す。

52年
 1月
 ・正月、元旦。「十年間実行」の決意。
 3月
 ・ロープ、ひも、ゴム手袋、スコップを使用。
 5月
 ・干潟の北側に、松の苗木百本植樹。干潟近くの住民も協力。
 6月
 ・新聞配産の時、交通事故にて、スネを砕く複雑骨折。三月入院。
 9月
 ・松葉杖とギブス姿で入院。脚には大きなステンレスの金具が入っていた。
 10月
 ・松葉杖で干潟まで歩いて行った。背中には、本、ゴミ袋、手袋、ノート、洗面道具を入れて、入院後、初めて干潟を見る。干潟見つつ、将来を考え、決意を新たに、かつ、確り覚悟す。
 12月
 ・松葉杖とギブスで清掃活動を再開す。時には車、時には歩行。
 ・谷津干潟を、南部、北部、西部に三分し、清掃活動の作戦、方法を練る。

とにもかくにも、やり始めた。見通しや展望は、全く持てたりののは苦しかった。

↑この頃より、谷津干潟は少しずつ甦っていく。↑ 習志野市の「谷津干潟プロジェクトチーム」、「干潟は死滅」の最終判断を下す。

谷津干潟クリーン作戦のあゆみ

54年5月。草むらひの中のベンチで遊ぶ子供供を見た時、それは一つの転機だった。

55年		54年		(谷津干潟クリーン作戦の戦国時代へ)			53年				
5月	4月	3月	2月	10月	5月	3月	9月	8月	7月	5月	2月
<ul style="list-style-type: none"> ・谷津干潟クリーン作戦に協力。 ・大蔵省クリーン作戦に協力。 ・京成電鉄とゴミの事で対立。 ・類々作業員とで参加、協力。 ・中土木クリーン作戦に重機類と作業員とで参加、協力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本道路公団、前田建設、竹中土木クリーン作戦に重機類と作業員とで参加、協力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○才一回谷津干潟クリーン作戦が行なわす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟への不法投棄物、ゴミのことで習志野市と対立、やり合ふ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・脚の中から金具をばす為入院。 ・ハニゴの作成。水路を清掃。 ・地元の主婦、住民の一部が本格的に協力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・約三社の草地保存決定。 ・ゴミ入小ドラム缶、ミテ所設置。 ・習志野市役所へゴミ届ける。 ・ゴミの集ルルート出来た。 ・三者会谈行なわす。 ・テーブルとベンチ認めらる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・約二百五十のテーブルとベンチ完成。 ・テーブルとベンチをめぐって、企業等と全面対決。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大工道具を次々と取りそろえ、この頃より、清掃を中心にして、全ての事が大車輪に動き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流木と竹とアシで、あがすま屋を八つ作る。 ・京葉ホンダ社長、小林大光氏より車を頂く。 ・テーブル、ベンチの作成に着手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千潟でゴミが最も多く、最も環境の悪かった谷津三丁目側に「クリーン作戦モデル地区」の作成を決意、着手す。 ・松葉杖のまま、再び看板を立て始める。 ・松葉杖ははずす。 		
59年	58年		57年		56年		55年				
9月	5月	1月	11月	10月	8月	3月	1月	11月	8月	2月	7月
<ul style="list-style-type: none"> ・手作り干潟完成 ・津田沼高校側に安全柵の設置。 ・干潟周辺の子供会、老人会、婦人会など、一般市民の協会めくたす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町会より、クリーン作戦への協力の申し込み有り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ入小の缶をミテ設置 ・谷津干潟友の会の為本格的に力を入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前田建設と竹中土木に感謝状を送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・津田沼高校側にくずかミテ設置 ・干潟と水路への油のタレ流しを掃発。 ・道路公団、企業等へ行く。干潟の競馬場側に、人と自転車の為の遊歩道の作成を要請。着手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・果企業等に連日ゴミを届ける。 ・果企業に更力行使と交渉を重ねる。 ・果企業等に、干潟周辺の水路のゴミ清掃を要請、着手させる。 ・二年計画でアシ原の作成に着手。 ・メダカの池の作成に着手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園のトイレ掃除と紙の備えつけ。 ・果企業等に連日ゴミを届ける。 ・果企業に更力行使と交渉を重ねる。 ・果企業等に、干潟周辺の水路のゴミ清掃を要請、着手させる。 ・二年計画でアシ原の作成に着手。 ・メダカの池の作成に着手。 ・果企業等に連日ゴミを届ける。 ・果企業に更力行使と交渉を重ねる。 ・果企業等に、干潟周辺の水路のゴミ清掃を要請、着手させる。 ・二年計画でアシ原の作成に着手。 ・メダカの池の作成に着手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水上観察舎の建設。 ・公園のトイレ掃除と紙の備えつけ。 ・二年計画でアシ原の作成に着手。 ・メダカの池の作成に着手。 ・果企業等に連日ゴミを届ける。 ・果企業に更力行使と交渉を重ねる。 ・果企業等に、干潟周辺の水路のゴミ清掃を要請、着手させる。 ・二年計画でアシ原の作成に着手。 ・メダカの池の作成に着手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟周囲と水路のペトロール。 ・大蔵省と相談。ゴミ置場決める。 ・干潟周辺の住民と和解、協力も得る。ゴミの投棄殆んど無くなった。 ・谷津干潟野鳥観察舎建設。 ・フローネの小屋、バンブハウス作成。 ・水上観察舎の建設。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住所を市川から習志野市へ移す。 ・京成と交渉。谷津遊園から出たゴミを清掃させる。園内立入自由。 ・道路公団、鉄建公団の工事現場への立ち入り自由。水路を清掃させる。 ・谷津干潟クリーン作戦モデル地区完成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習志野市、クリーン作戦に協力の約束。ゴミの引取り行なわす。 ・ゴミの市ルート出来た。 	

この頃すでに、クリーン作戦は“市民権”を得ていた。 ←この頃、悪魔か阿修羅の如く、朝も昼も夜中も働く→

野外活動にとって、今年の冬は、長く厳しい冬のでした・・・

ふかんど

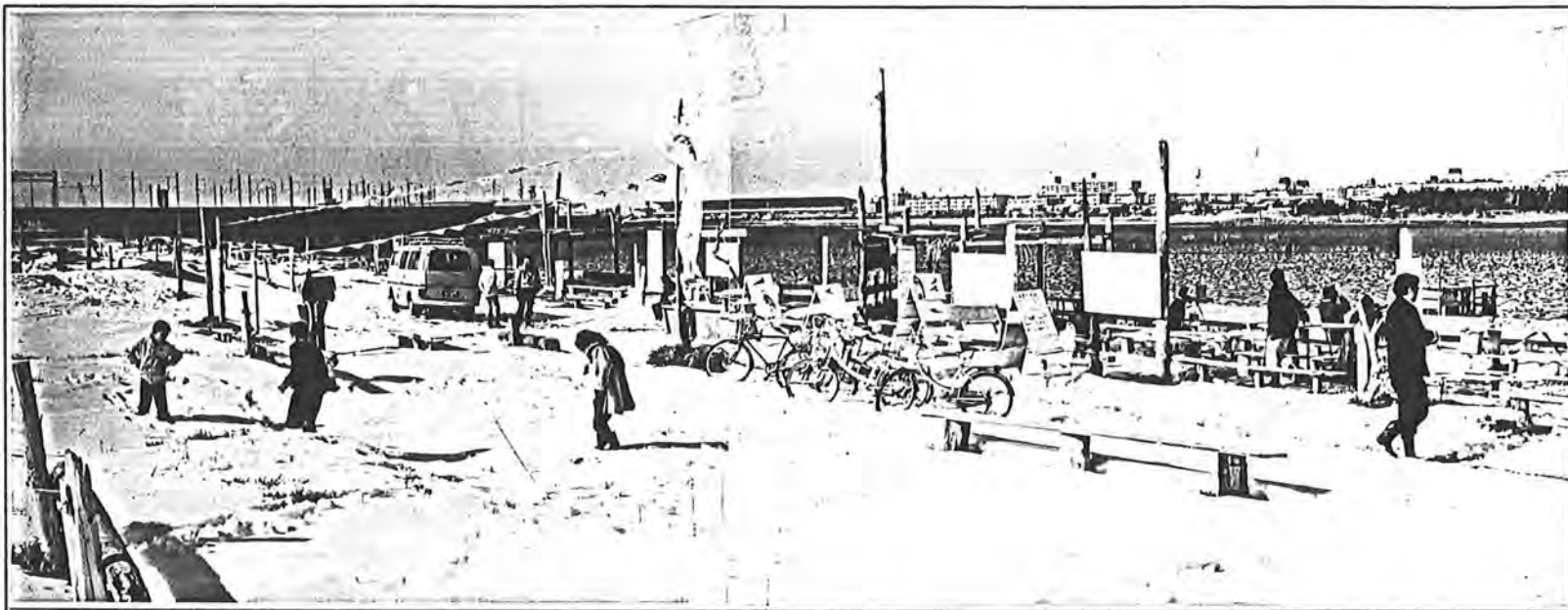
オ290号

1984.4.20

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津三十七 鶴荘E号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責・編集 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9



雪野原でやりました、谷津干潟友の会。果して、人が来るかと思ひながら、黄色いハ

シカチの旗や鳥の絵の看板を設置しました。こんな日でも結構来ました。

メダカの池のすぐ近くの草むら。田舎の子供とその父親が、仲良くスキーをしていた。こんな光景、谷津干潟では初めてだ。



谷津干潟愛護研究会が、昭和四十九年に発足して以来、今度の冬が最も厳しく、長かった。
 吹きさらすので、あらゆる天候の冬に身をさらす、ボランティア活動にとり、常に「重圧」となっているのしかかってくるのである。干潟では、作業する時、身

を隠すものが何もないのであるから、尚更のことである。

干潟では、立っているだけで足の裏が痛くなってしまうし、ゴミを捨てる時の指先の感じがなく、なってしまうのである。それでなくとも、干潟が凍ってついていて、ゴミが拾えなったり、わざと足で氷を割らなければならぬ有様だった。ましてや、雪でも降ったらみんな下に埋もれて、見えやしなかった。

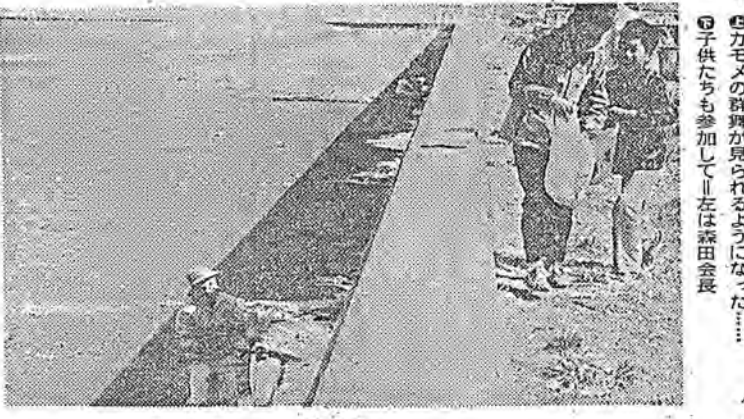
これから、攻勢に転じます

この冬、クリーン作戦をはじめ、野外活動はあしなべて、守勢、押され気味だったと言わざるを得ない。

でも、とうとうすっかり陽気も良くなった。さあ、これから攻勢に転じて、又いつもの如く、活動的に力強くやこりきたい。

この頃、ユリカモメの為に毎日パンのミミを投げ与えていた。雪の後では特に、盗んに食べに来ました。

白い雪景色で、ぐるりととり囲まれた谷津干潟って、案外素敵なんですね。



カモメの群舞が見られるようになった... 子供たちも参加して左は森田会長

(毎日新聞)

保護訴えてまる3年

愛護研 15日 15日 ゴミ拾いや野鳥へ"愛"

海遊び相手に育った森田さんでも有数の野鳥の宝庫と呼ばれるが、埋め立ての進行で、国、各地からバードウォッチャーがやって来るまでに残すことができず、それさえも生ゴミや粗大ゴミの捨て場になっていくのを悲しむ、一人で干潟の清掃に乗り出したのがきっかけ。新聞配達の仕事の間を縫って、黙々とゴミ拾いを続ける森田さんの姿に共鳴、干潟整備四カ年計画に今年から約百六十億円の予算が認められることになったのも、同会のクリーン作戦が、干潟保護の世論を盛り上げ、行政の重い腰をあげさせた、といえる。

三月、干潟の保護活動を市民の間にも広げたい、という同会の願いから始まった。清掃活動を毎月第三日、火曜日の二回と定期化して、一般の人参加しやすい一方、その想い出だ。干潟のあちこちで清掃活動を大幅に増やした。活動は、午後一時に同会活動拠点になっているフクロネの小屋前に集合、干潟の中や周辺の緑地に散乱するゴミを拾い集めること。また、野鳥の観察用に手づからペンチや観察舎の修理など、短い時間にたくさん仕事をこなすため、森田さんら会員は大忙しだが、作戦のおかげで、干潟は、首都圏くまうた。

「私の理想...」 公害防止事業団による谷津干潟整備四カ年計画に今年から約百六十億円の予算が認められることになったのも、同会のクリーン作戦が、干潟保護の世論を盛り上げ、行政の重い腰をあげさせた、といえる。

谷津干潟愛護研は四十九年十二月に結成された。干潟の

バードウィークに因んで

期日 5月6日、13日(日)

場所 谷津干潟自然緑地

フクロネの小屋の所
黄色いハンカチの旗が目印

時間 午後1時～五時まで

主催 谷津干潟愛護研究会
谷津干潟友の会

谷津干潟に不法投棄物

ダンブ三台分

止事業団が新年度から四年がかりで野鳥の楽園づくりを進める予定地。十日ほど前に不法投棄に気づいたという谷津干潟愛護研究会の森田三郎さんは「草地区はこれからはバリ、ヨシヤリなどが卵を産みつける場所だ。そこをコンクリートの山にするなんて、ひどすぎる」と怒っている。コンクリート片などが不法投棄されていたが、今回のようなコンクリート片は、土地管理者の責

文字通り、新緑燃える青草の上で行なわれます。足もとにご注意を！約200枚の字真パネルが、草はらの中で半ば放り出しているような感じで展示されます。又、流木で作ったテーブルやベンチに立てかけたり、小屋につるしたりして、市民の方に見て頂きます。

内容は、干潟や埋め立て地の環境写真・ボランティア活動のさまざま・渡り鳥・谷津干潟クリーン作戦・ありし日の谷津干潟と赤銅色の子供産・谷津干潟自然教育園のイラスト・干潟の生物標本など...

散歩ついでに どうぞ！

懐しい、昔の谷津干潟(当時はふかんど)の写真を頂きました

ふかんど

号291

1984.4.30

谷津干潟愛護研究会
 〒270 習志野市谷津字七 鶴荘15号
 電話〇四七四一51一五〇四四
 文責・編集 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

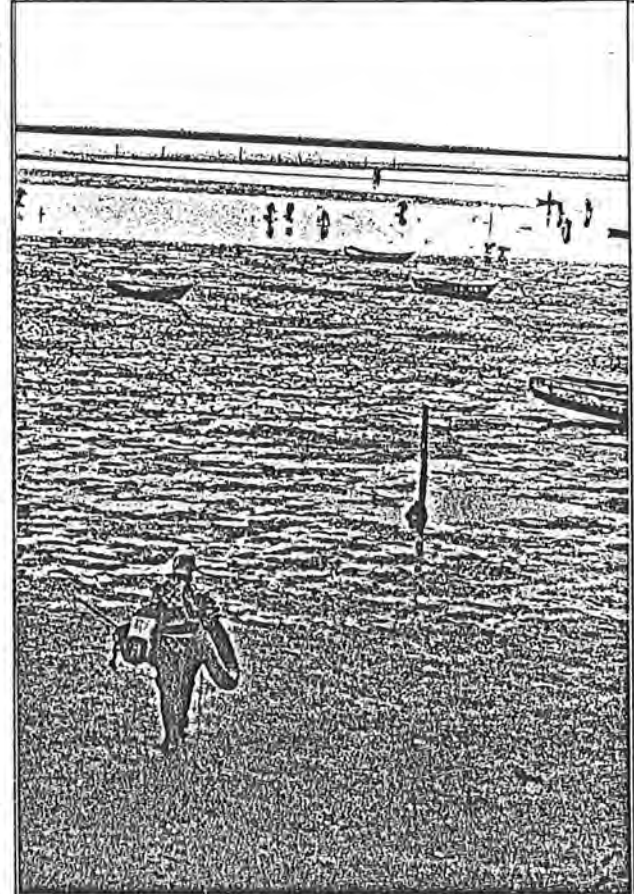
始りまして読者新聞で拝見いたしました
 各津には甲子年から壬午年の春まで
 おりました 教り直ぐの津辺でいろいろ
 な野をみ見られし昔々く眺めて竹を
 追った日々も思ひあつた
 ちやうど山と水と、おのれと人の
 皆さへともわく流れてく海苔を拾
 った小舟もたまたま下平な干潟を
 平作してつらつらとんもあつた
 こころに春もあつた津の干潟は
 場所がうらやましくなつた
 おりました
 海で大きなゴミを焼いたを思い出して
 かつらつて、森田様からたまたま
 森田様のお心にその都府公園に
 野を観覧舎もあつた
 心
 へおまじ申し上げます
 田村のやまは潮干狩りも海苔拾
 ちもたつた頃かを思い出して
 羨しくおまじ申し上げます
 じつはお許り下さいませ

四月十七日

佐倉市之崎 三九一四四

須藤 まささん

森田三郎様



谷津3丁目地先より、南西、船橋市の高瀬町方面を望む。

写真を送ってくれたのは、佐倉市にお住
 まいの須藤まささん(附オ)です。
 今から10年前頃であらば、谷津干潟は
 まだ「ふかんど」と呼ばれていた時代である。
 そしてそれは又、「ふかんど」という呼び名が
 使われなくなりつつあった時でもありました。
 須藤まささんは、この頃ふかんどで、アサリ
 をいっぱいとりたり、潮に乗って流れてくる海
 苔をすくっては、自分産で作っていたのでした。
 十月十五日(日)の読売新聞の記事を見て、
 懐しく当時を想い出しながら、とし何かの役
 に立てばと、そう考えて送ってくれたのだと思
 います。須藤さん、どうもありがとうございます
 ます。写真を見ながら、私産を新しい力が
 湧いてきまし
 た。
 尚、この写
 真を拡大して
 パネルにし、市
 民に見せます。



谷津3丁目地先より、秋津・茜浜・芝園方面を望む。

この写真の頃にはまだ、谷津3丁目前と谷津遊園にはたくさん納涼台がありました。

昭和42年当時、東京湾奥部において、埋め立ての相次ぐ中、「ふかんど」と沖へと続く干潟は最後まで残っていた。

野鳥が戻ってきて来た

クリーン作戦の推進役は、谷津干潟愛護研究会代表の同市谷津三の七の七、新聞配達員森田三郎さん(三三)。京葉港築堤でせき止められてきた三十三の同干潟は、水路から流れ込む工場などの廃油や流木、また不法投棄の生ゴミや壊れたタンス、冷蔵庫、家の廃材など粗大ゴミが散乱

夢開花

者に見られたことさえあった。それでも、五十二年ぶから、周辺の主婦やお年寄りがちが、二人、三人とゴミ袋持参で清掃活動に加わり始め、一年後には二十人ほどに増えた。そして仲間を話し合っ、五十五年三月から毎月第三日曜、火曜日を定期清掃日

クリーン作戦さあつり100回目

よみがえる谷津干潟



清掃に汗を流す主婦(円内は森田代表)

し、荒れ放題だった。子供のころ潮干狩りを楽しんだところのある森田さんは、「貴重な自然を死なせるにはしびない」と、四十九年から、たった一人で清掃作業を始めた。新聞配達の間をぬって、生ゴミは集めて燃やし、粗大ゴミは一か所にまとめて積み上げ、市に回収を交渉。しかし、取り除くより捨てられるゴミの方が多く、「何も一人ではやなくて」と、変わり

読売新聞

4月15日

運動4年

に決めた。家事をすませた後、一回、二時間、持参したゴミ袋に、干潟に散乱した生ゴミを拾い集める。集めたゴミは自宅を持ち帰り、生ゴミ回収の日にご家庭で出たゴミと一緒に出す。悩みのタネだった粗大ゴミの処理も同年七月から市が引き取りを約束。清掃活動が軌道に乗るに従い、不法投棄されるゴミの量も目に見えて減っていった。森田さんの話では、最近では三十人から五十人の参加者があり、ふだんの日も入れると、これまで延べ一万人を超えるという。

期間
5月3日
～
5月10日

◆楽しい記念の催し計画◆
百回目のクリーン作戦は、ルの並宮フローネの小屋。きょう十五日後一時から行 作業のあと記念のおしるし。あられる。集合場所は、森田さん 豚汁パーティーも予定して が流木、廃材を利用してつく いるが、この日は在日外国人 ったあすま履、ベンチ、テニ の自然保護団体「地球友の

色のメンバーも参加、運動 行きバス、京成谷津遊園駅南 について語り合う一方、「交 口の千葉寄り三百メートル 流会も開く」ことになってお から同バスで、津沼高校前 り、一般の参加も待ってい 下車。徒歩五分。問い合わせ は同干潟愛護研究会(電〇四 七四一五一五〇四四)へ。

パネル写真60点を展示しました。 閃沢は、渡り鳥を中心30点。鳥 や干潟と人間のかわり合、ボラン ティア活動などが30点です。

私産としては、100点ぐらゐり展示し たかっただけですが、場所がなりの事。 鳥の字真だけをズラリと展示し たのでは、図鑑みたくなってしまう。奥 行きも中もなく、当会の方角にもぐ わないので、ある程度こちらの希望を 入れてもらいました。いらっしやあーい。

メガカ池の水が 持ちこたえました

作ってかりる年目。一昨 年はドカツと水が溜まっ て、たちまち水が地下

にしみ込んで抜けてしまいました。水を補 給してと向に合わず、地割れまでしてしま いました。特に冬はそうでした。 でき、今年の冬は大丈夫でした。池にく わしい人によると、一年目の系掘りはどこ でき、どうしても涸れてしまつたこと。

行政も動かして—さあ楽園づくり

さらに大きな成果は行政を も動かし、環境庁の外 郭団体である公害防止事業団 の谷津干潟整備四か年計画が 今年度から約六十億円をか けてスタートする。干潟に緑 地帯と野鳥が羽を休める水辺 を整備し、野鳥観察舎などを 建設、都市公園型のパド・ サングチャペリにしようとい うもので、森田さんは「都会 に残された数少ない自然だけ に、これからは大切に守って いきたい」と話し、関係者は 事業団の早期着手を待ってい る。

メガカ池、みんな盗られてすってんてん、今は野ネズミ 来て泳ぐ。(お粗末

我、コアジサシと共にゆかまし、---すべて潰える其の日まで

ふかんど

号292号

1984.5.5

谷津干潟愛護研究会
〒260 習志野市谷津干七 鶴荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責・編集 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

夏雨云の

果てまで広かるコロニーは

海原如きの繁殖地

体の奥より湧き出する

妖しきドラムの律動に

我は誘われ とせ 十年なる

貝がらまぶしく砂熱し

かげろう潮風大砂塵

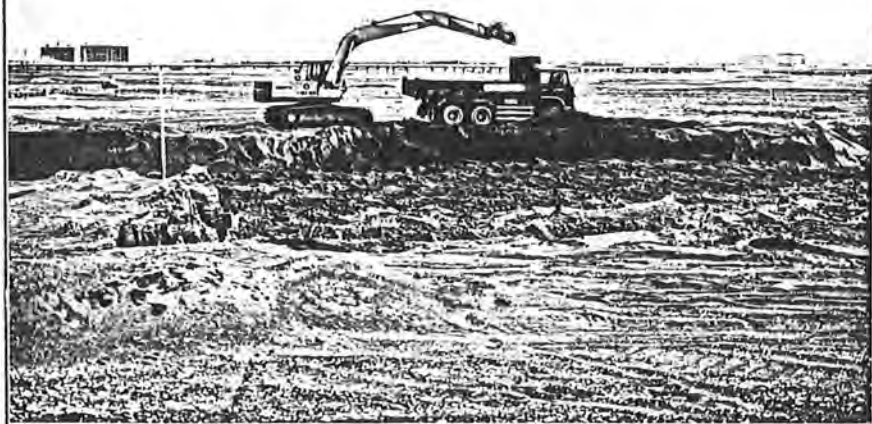
土と水と草白う

五感に満ちて埋め立て地

経巡り移りの今をかし

幼き頃の 遠浅の

海へまぎとの地下にあり



5月1日。千葉市幕張埋め立て地。
最期のコロニーの真只中にも、開発は進む。

なやかは知らぬやコアジサシ

我は汝 なれ に憑かれたり

沖へ隅へも追われ消ゆ

往時の面影今はなし

ついのすみ家のほざまなれ

最後の一つの卵まで

すべて潰えたる其の日まで

共にゆかまし コアジサシ

x x x x

今年と、コアジサシ・シロチドリ・コチ

ドリの繁殖調査をします。期間は、

繁殖期である、4月下旬から8月の初め

まで。早いので、昭和50年からやり始め

てとう10年になりました。

千葉港、幕張埋め立て地が出来て、

コロニーが形成された時が50年頃なので、

丁度タイミンがよかったです。

東京湾奥に於けるコロニーの最盛時

には、荒川河口の葛西埋め立て地、更に

浦安埋め立て地にまで調査範囲を広

げていました。しかし、相次ぐ開発の波

にコロニーは次々と消滅してゆき、1000

余りの巢は殆んばなくなり、今は、幕張

埋め立て地の、ほんの一角を残すのみとな

ってしまいました。さあ、今年はいくつの

巢が作り出されるでしょうか---

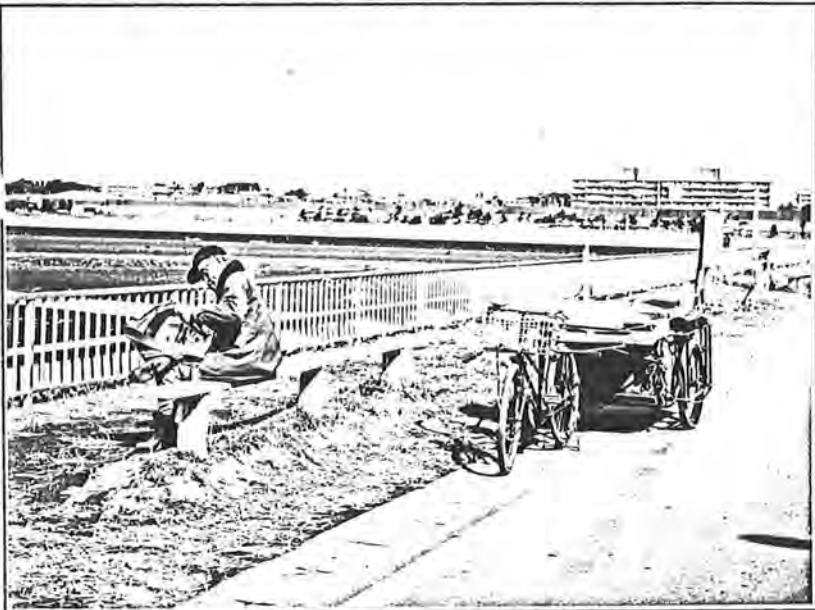
繁殖調査、コロニーに同行した方は、次の所に連絡して下さい。0474・51・7076中村 0474・51・7054長塚 あまは森田まで。

コアジサシは南のパプアニューギニア、オーストラリアから、シロチドリ・コチドリはミベリアカナカから。

このおじいさんとは、埋め立て当初からずっといっしょでした...

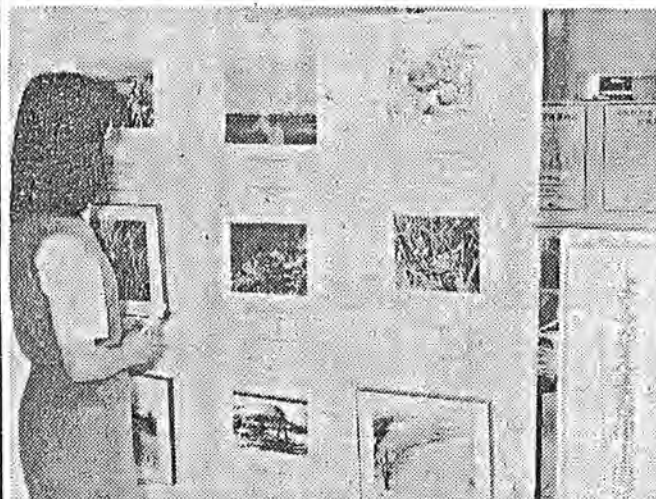
西武さん、ありがとう

59年3月3日 → コロニー、アミ原、水溜まり、セイタカシギ、草原、雲、おじいさん...



今はもう、こうなると、懐かしさと親しみが、その黒く陽焼けした、フヤのある顔を見ると、いろんな想い出と共にこみ上げて来てしまうのです。
 広ろく埋め立て地に、道路らしいものも何も無かった頃から、いつそく見かけていました。サンド

販売促進課の野中公子さんには、とてもお世話になりました。



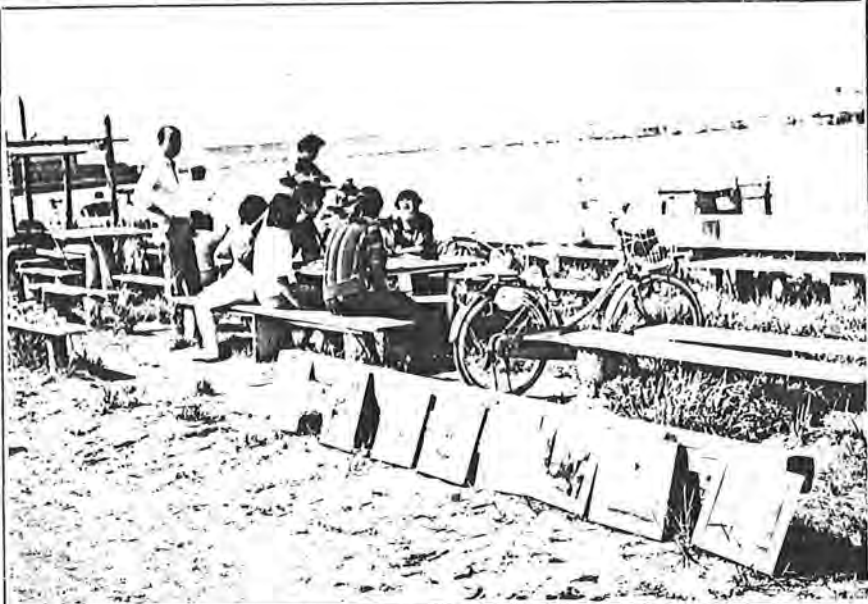
パイプがまだ、どろ水を噴いていた時です。自転車にリヤカーを付けて、よたよたと迷うのが如く、埋め立て地のおちこちで鉄くずや金目の物を拾い集めてりるのです。ふた言ひ言ひしか言葉を交していません。おじいさん、今もお元気ですか。

習志野市の谷津干潟を野鳥のすみとくに「クリーン」作戦を展開している谷津干潟愛護研究会、森田三郎会長（三）の写真展「よみがえる谷津干潟」が西武船橋店六階で開かれている写真展。
 展示作品はゴミの山から百回におよぶクリーン作戦で、野鳥の楽園にやみがえった干潟や飛来する野鳥たちをおさめたもので、ハツ切から四ツ切まで六十六枚。
 撮影した森田会長は、昭和四十九年ごろ東京湾周辺で唯一となった谷津干潟がゴミの山に埋もれているのを知って一人でクリーン作戦に乗り出した。このクリーン作戦は先月十五日で百回を数え、多い時は二百頭、五千から一万羽の渡り鳥が飛来するまでに谷津干潟はよみがえった。
 この写真展は日本野鳥の会の五十周年記念の一環で九日まで。

船橋西武で森田さん10年間の記録
クリーン作戦
66枚の写真で
 「よみがえる谷津干潟」

東京新聞社 5/5 ↓
 読売新聞社 5/5 ↓
 千葉日報社 5/5 ↑

写真展、ベツに、建物の中ばかりが能じゃありませんよ。ヒバリが鳴いてらあ。



谷津干潟の野鳥紹介
 日本野鳥の会五十年を記念した「アイ・ラブ・パードフェア」が、西武百貨店で開かれています。
 第一弾は、習志野市にある谷津干潟のバードフォトギャラリー（9日まで）で、谷津干潟愛護研究会の森田三郎さん（三）が、干潟の保存運動を通じて撮り続けてきた野鳥



習志野の野鳥写真展
 谷津干潟の保存運動で有名な習志野市谷津三ノ七、新聞記者森田三郎さん（三）が九日まで船橋市本町、西武百貨店船橋店で「よみがえる谷津干潟写真展」を開いている。コアシサシの産生、シエチドリの際れ、ユリカメメのえいじ、セツカのみなど野鳥の写真を中心に集めた六十四点の写真が展示され、人気を集めている。
 なお、同店では森田さんの写真展終了後、日本野鳥の会や日本野鳥の会千葉県支部主催の野鳥たのびパネル展などが開かれる。

好評です、野外写真展 (5月3日)

小かんど：… 広い遠浅のうみがあった頃の、昔の谷津干潟の、土地の人の呼ぶ名

ふかんど

第293号

1984.5.10

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津干七 鶴荘E号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責・編集 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

- ・ 渡り鳥を見ながら
- ・ アシを刈って、フロローネの小屋を作りながら

- ・ 野菜や肉でトシ汁を作
って食べるのです。

秋津子丁目子供会「ひまわり」

子供が10人ぐらゐ、父兄が20〜30人程
 来るとのこと。ついでに、クリーン作戦と
 体験させたいそうです。

愛護研究会、友の会と協力の依頼が
 ありました。

係の人の話では、ただ谷津干潟に行
 って鳥を観察するのではなく、体を使
 っていることとをさせたいそうです。
 とくに、フロローネの小屋は、ここから夏

の暑さに向って日陰が必要なので、毎
 年みんなが使っているので、子供産に作り
 せてみたいと。

フロローネの小屋は、谷津干潟での野鳥観
 察、ボランティア活動などの中心となってい
 ます。同時に、「谷津干潟の象徴、シム
 ホル」ともなっている所です。

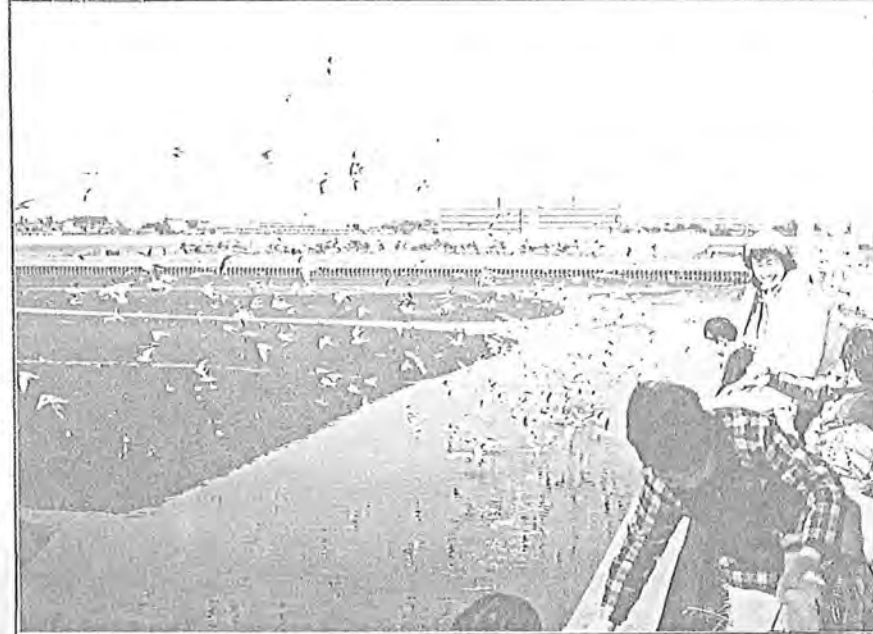
流木と竹とアシを組み合わせて作り
 した「フロローネの小屋」は、初め「土人
 小屋」と呼ばれ、次に「あずま屋」と
 呼ばれてきました。

涼しい季節には、あまり有難味は
 感じさせませんが、初夏から秋頃まで
 は強い日差しをさける為の「日除けの
 小屋」として、絶大な効用をしてきてい
 ます。とくに婦女子、老人はとうでした。
 みなさん、「フロローネの小屋」をかわりがってね。



四月十三日を 最後として

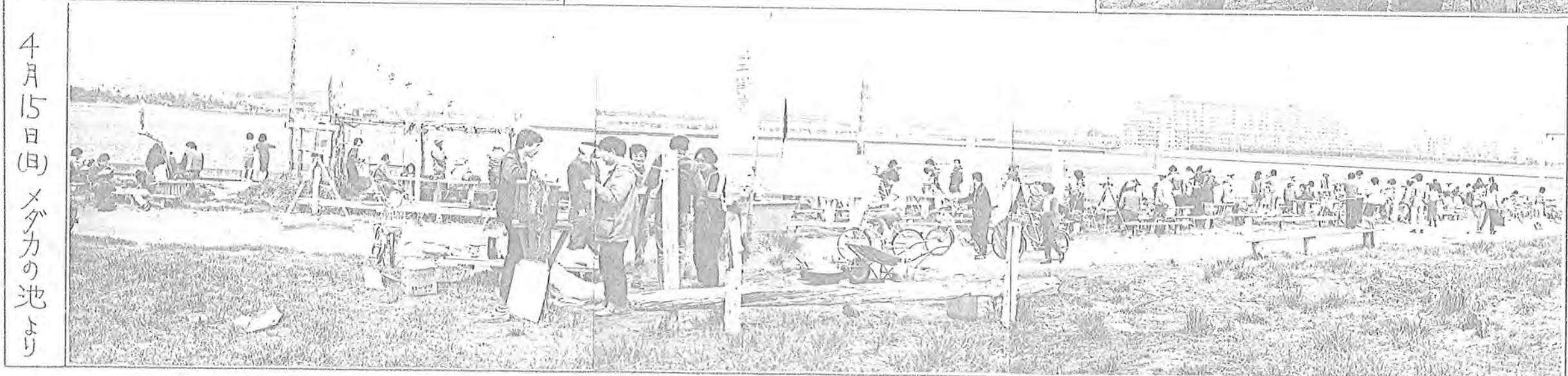
昨年の十一月より
 親しんで来たユリカ
 モメは、遂か遠い国へ
 と帰っていききました。
 三月中旬より続々
 と大集結し始め、渡
 る直前には一万羽を
 越え、一日で姿を消した。



「フロローネの小屋」… テレビ漫画。女の子の名前で、南の島に漂着し、そこで名付けた。

餌付けに協力してくれた、団地の子供や主婦、パン屋、大変有難うございます。

この日、千葉の干潟を守る会、千葉県野鳥の会、子供会「ひまわり」のリーダーと来りました。



とってもおいしく出来ましたよ

十嵐さん谷澤さん大急がし。

味つけ、火加減など、五

らぐで煮えてしまいました。尚、千葉の干潟を守る会と地球友の会から、各5000円のカンパがありました。

「サンキュウ、ベエリイマッ

チノ」。そしておかわりー。

トシ汁80人分、おしる粉40人分が
あっと言う間になくなってしまいました

x x x x x x x x

身障者の方と、「うんまい」。

家族そろそろ、おしるそうに。



上の写真の如くとてもたくさんの方が来ています。でも今の谷津干潟バードウォッチャートリ市民の方がずっと多い。

ふかんど

第294号

1984.5.12

事務局 0474-517076 中村方

谷津干潟愛護研究会

〒50 四日市市谷津干潟 鶴荘E号

電話 0474-511504

文責・編集 森田三郎

会費 年2000円

創立 1974.12.9

海の土手みちの近く、人の
声が届く所にあった。

ぼくの家から五、六分
で、海へ行く途中にあった。

貝ガラだらけの貝ガラ
工場は、貝ガラムにくるり
と包まれましたようにして、

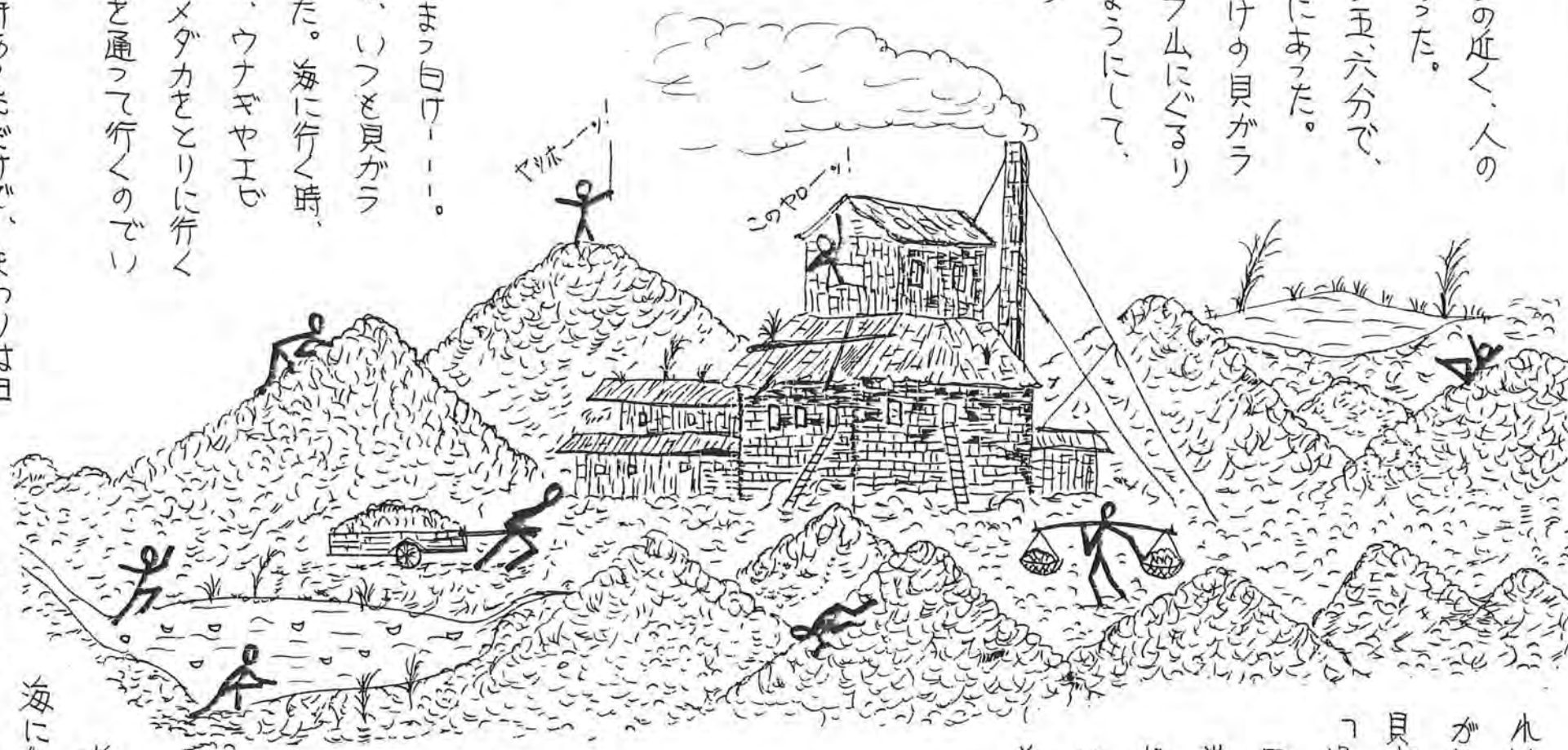
埋められるよう
にして建ててい
た。

ほんとうに
みんな、何も
かまっ白け
だった。

働いている
人と煙突をり
ヤカーと、工
場も空地も道もまっ白けー。

貝ガラ工場は、いつも貝ガラ
の匂いがしていた。海に行く時、
フナヤドジョウ、ウナギやエビ
ガニ、金魚草やメダカをとりに行く
時、ぼくはそこを通って行くのでい
つも見ていた。

近くに家が数軒あっただけで、まわりはヨ
シ野と野はらと田んぼ、そして沼と小川だっ
た。そこに行くとき、子供のぼく達の鼻には、
貝ガラとそれを焼く匂い、水と草の匂い、そ



れと潮の匂いや土の匂い
かヒクヒクとして入ってきた。
貝ガラをすりつぶして、
「胡粉」を作っていた。
四角いレンガ作りの、
半分ぶつかれた煙突か
らは、少しばかりの白
い煙がいつも、けだる
そうにゆっくりと煙が
出ていた。

陽の光を受けた貝
ガラ置き場は、明る
くて白っぽく、キラ
キラとまぶしいくら
いだった。

ガラくんと音をた
てて、半ば箱れ、又
滑るようにしてぼく
達は貝ガラムを登っ
たり、ずり落ちたり
して遊んだ。そばに
ある小川や沼に、貝
ガラの船を産べては、
水門や土かんを通って
海に出ていくのを追った。

裸足で跳んだりはねたり走ったり、それ
で足を切ることはなかった。夏の夕方、貝
ガラムの上空には、オンジヨ(ギンヤンマ)の
大群が、雲のように集ったものだった。

貝ガラ工場は、昭和30年代の終り頃、埋め立てが始まると共に姿を消していった。

子供にとって、貝ガラはいろいろな遊びに使えた。貝は投げ方によって、さまざまな飛び方があるのをガキ大将から教わった。

クリーン作戦随感

“ふかんど時代”を訪ねて（谷津と津田沼の間の旧海岸）

毎月出している、クリーン作戦のお知らせから記載したもの。

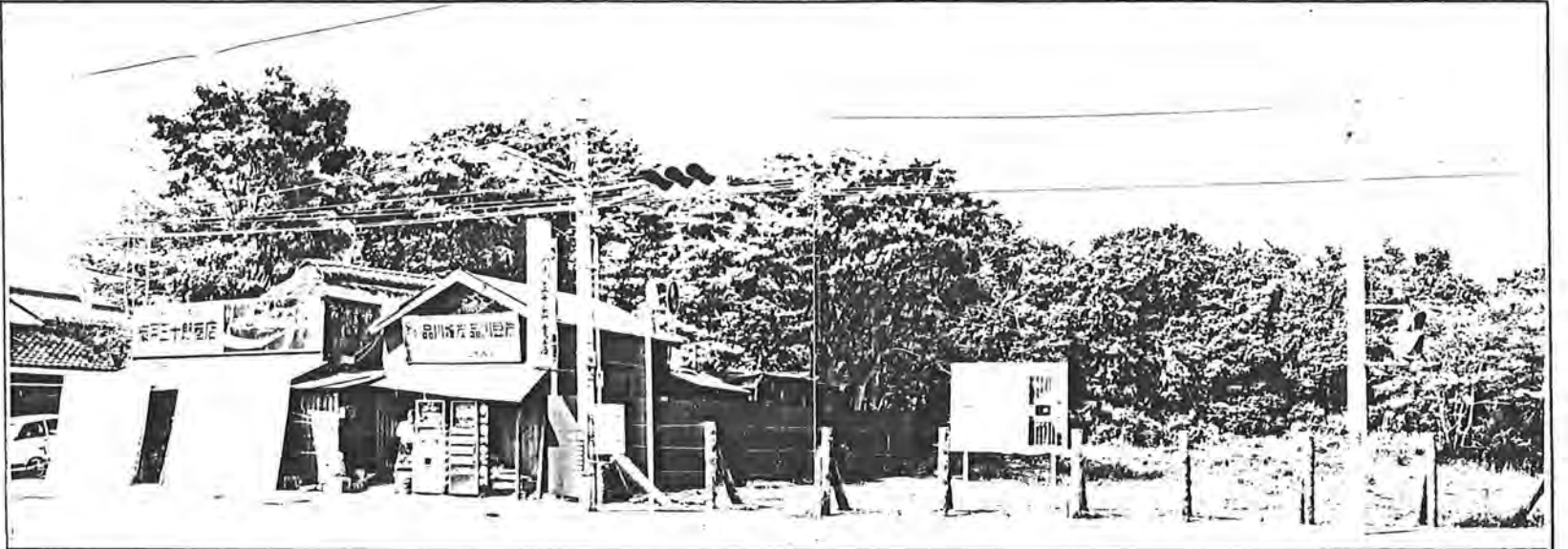
ただひとつ
残るみどりみどりは 海藻あそびかな

ノパンのミミ
投げれば集うや ユリカエメ
日ごと日ごとに 倦れてゆき

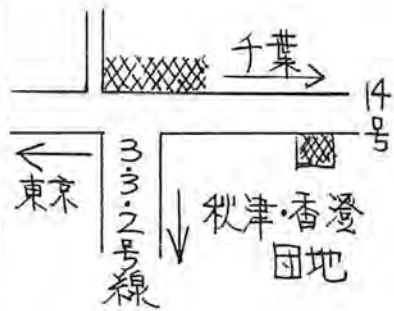
ゴミを取りゃ
砂は息してうれしそう
お日標カンカンそよぐ風
カニがわんさか湧いてきて
みんなで体操してやんす

草は萌え
カニは体操空に鳥
水に魚群の帯あまた
往時の“ふかんど”、思い出さん
初夏のいのちでゴミ拾い

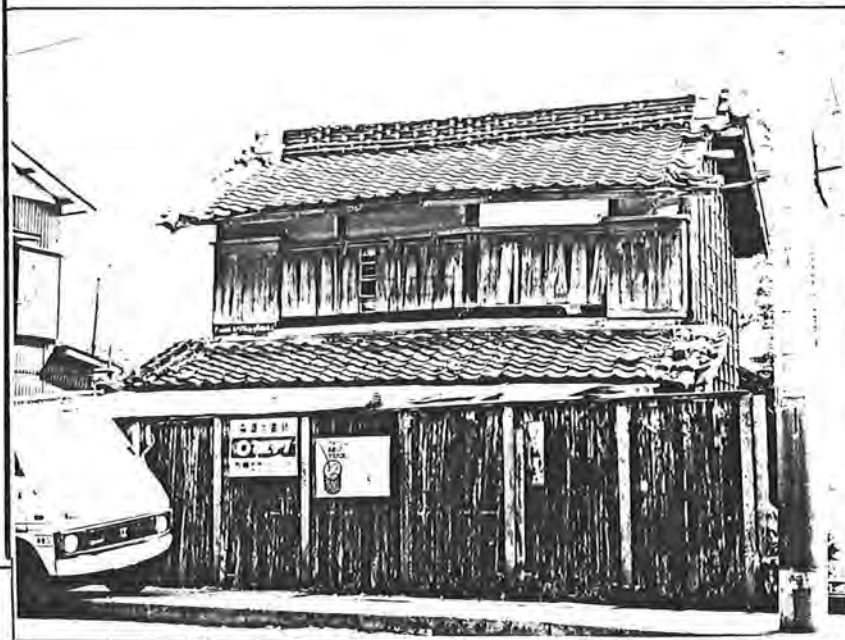
撮影 昭和59年5月3日(土)



地図



上の写真、埋め立て地と旧市街地、国電津田沼を結ぶ3・2号線の開通によって消える、海岸林と昔からの民家である。25年前頃までは、千葉街道沿いは勿論、この写真の所にもズラリとノリが干されていた。下の写真は、納屋らしい。この辺は、半漁半農が多く、漁具と農具を入れたのだらう。



「ふかんど」京葉湾岸に無数にあった干潟がそう呼ばれたのは、二十年前ほど前まで。その名前も、埋め立て、開発が進み、忘れられつつあったなかで、森田三郎さん(左)が干潟を残す運動を始めて十一年になる。船橋市宮本生まれ。泥んこになって遊び、育ったふかんどが次々と姿を消し、日本でも最大規模の野鳥飛来地、谷津干潟にも埋め立ての波が及ん

干潟を守って11年 自然保存に情熱 森田 三郎さん



「ふかんど」京葉湾岸に無数にあった干潟がそう呼ばれたのは、二十年前ほど前まで。その名前も、埋め立て、開発が進み、忘れられつつあったなかで、森田三郎さん(左)が干潟を残す運動を始めて十一年になる。船橋市宮本生まれ。泥んこになって遊び、育ったふかんどが次々と姿を消し、日本でも最大規模の野鳥飛来地、谷津干潟にも埋め立ての波が及ん

だ時、保存のための活動を始めた。思い出の中に日なたぼっこをするのでなく、やれることから始めねば間に合わなくなると思いました。干潟のゴミ集め、草刈りから、一人始めた。集めたゴミの焼却、野鳥をはじめ生物の現状調査、さらに案内板やベンチの設置。手弁当で続けるうち、賛同者が一人、また一人と加わり一昨年の、谷津干潟クリーン大作戦」に発展した。あくまで開発の方針だった県も、ねばり強い運動に、谷津干潟そばの約三ヘクタールの草地を、「自然環境を目的とした土地利用計画」に変更。さらに環境庁と県では干潟を「国設鳥獣保護区」として保存の決定を出した。

奉仕、というより、ただ残したい、という思いだけ。一万羽の野鳥、無数のカニ、ゴカイ、魚の住む干潟を思い出だけにしたくない、残したいという、想いを貫いた。失った二度と戻らないのですから。十一年の間、独身を通し、仕事は活動をしやすいようにするために、新聞配達だけに。一段落して、次には干潟の緑地帯を増やすこと、下水処理のことを手がけたい、と話す。

習志野市谷津在住。谷津干潟愛護研究会会長。

干潟の作業・活動が終って、その後片付けをする時・・・

ふかんど

№295号

1984.5.23

谷津干潟愛護研究会

〒270 習志野市谷津字七七 鶴荘E号
電話〇四七四一五二一五〇四四
文責・編集 森田三郎

会費 年2000円

倉川 立
1974.12.9

事務局 0474-517076 中村 才

つまり、谷津干潟でいろいろなことをや
って、私達の一日が終る時である。

「さあー、しまうわ、みまーしよ
っ、どっこりしよー」と思ふ。

なせか。それは、汚れて、くたびれて、
腹が減っているの、又、しまつものがた
くさんあるからである。

まあ、大体こんな調子を十年、春夏秋
冬天候の如何にかかわらず、繰り返して続
けて来ているのである。

干潟には、毎日行っている。そして、何
くれとなくそこそこで何かをする。

とくに、日曜・休日の午後を重点にして
いる。「干潟の労働者」たる我々に、午前
から作業するのでは、余りにとしんどいな
いもの。次の日には皆んな出勤するから、

。。。人影を少なくなくて、大きくなっ
たお日様が西の空に沈む頃。チドリがピロ
ピロピロ、シギがツピーツピー、
夕焼け空が真っかっか、夕風もよく、波打
つ草はう、ヨシ野がざわく、カラスがか
あーかあー、そして干潟がひときりわきわきに
目に映るし、白いお月様が見える頃。

そんな時、ぽつねんと干潟を見ながら思
ふ、「。。。今日も終った。あすこはあ
だから、ああしよう。ここんとこはこつた
から、ここんどはこつしてみようかしら、
。。。そんなふうにして、干潟に見入っ

ていると、自分の身も心も溶けて消えてしま
い、干潟にのみ込まれて、干潟自身になりき
って、自分の存在感すらなくなってしまひそ
うだ。気持ちが平靜になり、澄んでくる。

帰るのが、干潟を去るのが惜しくなる。後
髪を引かれるようだ。出来るものなら、した
いことなり、そして許されるのなら、そつと
そのまま持って帰り、明日の朝まで大事にし
まっておいて、大切にしようとしておいて、傷つけ
られないよう守ってやって、又持ち出してき
て、広げて置いておきたい。。。。

それはなにも、所有とか権利などでは更々
なく、谷津干潟の為に、「彼女」の為に、何
かしたい、少しでも何とかしてやりたいと
いう気持ちが高まるところからなのだろう。そ
れが、良くも悪くも分り始めるのに、こつし
て公言出来たまで、十年もかかってしまっ
たんだなあ、と思ふ。自然保護？。人が言
っていることと、知り始めたのに、分るのに、
オレはずい分遠回りするんだなあと思う。。。。



自然、緑地に植えられた沈丁花 4月30日

過ぎし来たりし「ふかんど」と、星に想いをつなぐ時、何故か全てが、風にもよぐ草の如きかと思ふ。

ならしめよ
我を甲木ならしめよ
動き想いで在るなる心
干潟の叫び声ふかんどに
尽くしてせかさんひと心

担うべし
過ぎし来りしふかんど
痛みと重荷を思いなほ
彼我の境を越えゆかん

若くよかし
儼せまほしや“ふかんど”の
さやかな叫び声身に満ちて
我ら僕ぞ成しゆかん

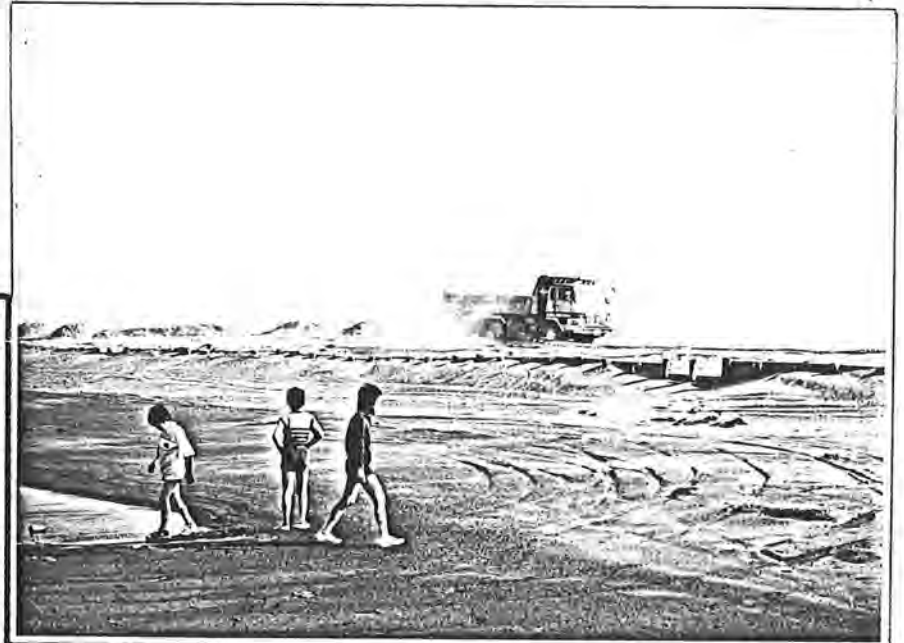
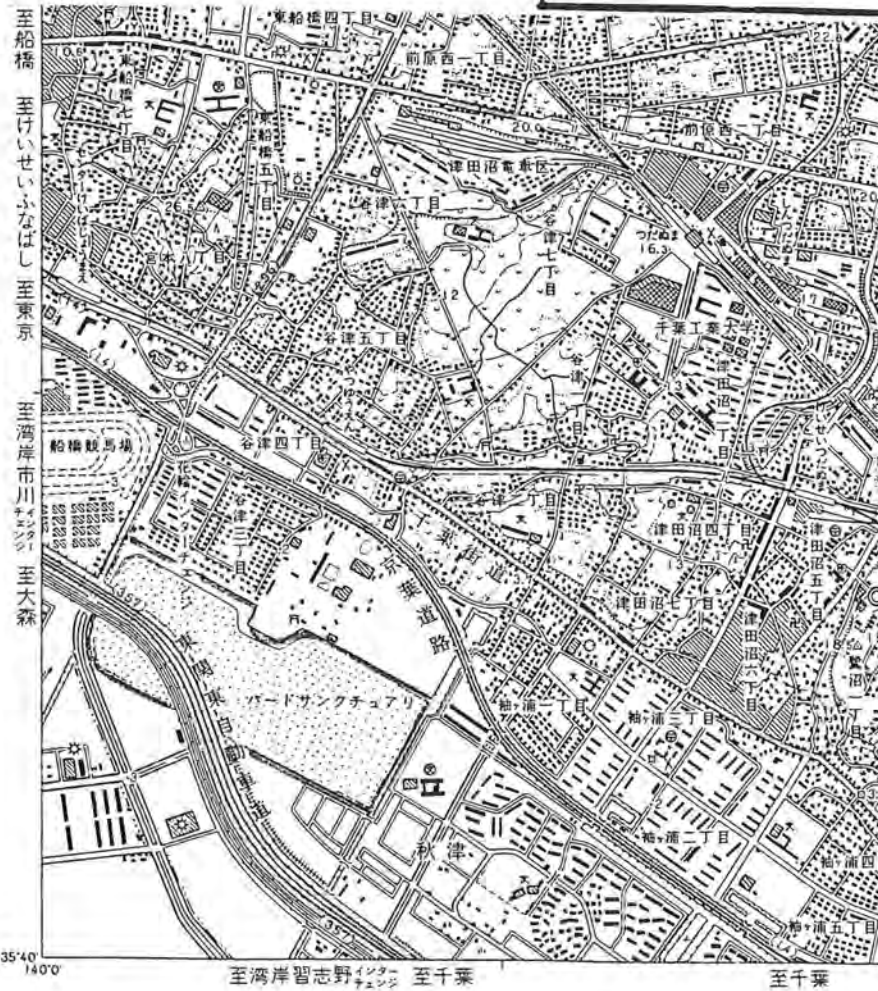
軽しめん
干潟の重荷をその心に
ひとつひとつとひとつずつ
つまづき転ぶの我らなれ

唱えたり
事物の流れの只中で
呪文の如くに四六時中
谷津の干潟よ甦れ
潜在意識の彼方まで

ゆえ皆さん、ちょっと聞いてよ、面白
いよ。あのね。国土地理院から出て
いる習志野市の地図(千葉西部二万五
千分の一)に、谷津干潟がすでにバード
サンクチュアリになってるんだ。長塚さ
んから教えられてね。現地調査は57
年8月。発行は58年12月28日です。

の広さになっていました。でも、その
ひくくなったくぼ地にも営巣しています。
田中慎也くん、中村暢孝くん、中村
彰吾くん、砂嵐の中も大変だったね。

五月八日(晴天)。
子供達と共に、コロ
ニーへ行って来まし
た。
連日、パワーショ
ベルとダンプカーが
ひっきりなしに砂を
取り、運んでいまし
た。取られた所はく
ぼ地になり、コロニ
ー全体の三分の二位



ふかんど

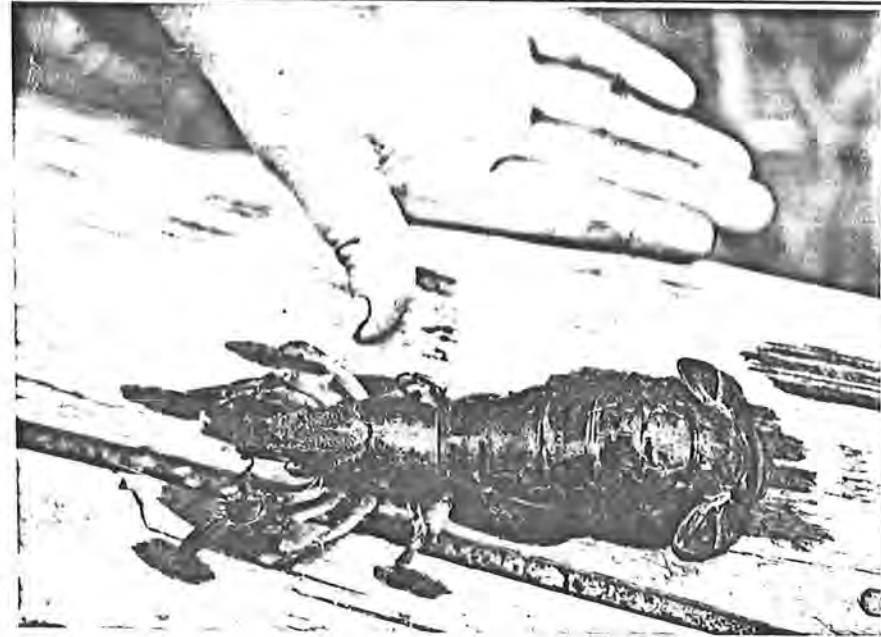
№296号

1984.6.3

谷津干潟愛護研究会
〒270 習志野市谷津三七七 臨荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費 2000

創立
1974.12.9



撮影 昭和59年5月20日(日) PM3.00

その名は「アナジヤコ」。つかまえたのは、干潟の近くに住む中学生、佐藤剛君(袖ヶ浦五十七歳)。5月20日(日)の午後3時頃、その子のお母さんがビニールの袋に入れた、メダカの池のそばにいたのを、森田が目にして、初めてわかった。

体長およそ13cmのメス。腹のところに、たくさん卵が盛り上ってついていた。佐藤君は、浅い潭のところでアナジヤコが歩いていたのでつかまえたという。

図かんで、ふつふつのもので大きさは9cm程とあるから、このアナジヤコはかなりでかいことになる。干潟の中で繁殖しているにちがいない。谷津干潟はその後も生き返り続けている確実な証しである。これに近い仲間で「スナモグリ」として、年々増えて来ている。

汗・暑さ・砂・泥・水の季節

まず、汗と暑さである。

なにもやってき、汗だくになる。干潟の中のヨシ野でゴミ拾いをしたり、「フロローネの小屋」の屋根を小さく為し、ヨシ野の中でカマでヨシを刈っている時などは、その最たるもので、あじやはなすじ伝いに汗がポタ／＼と落ちてくる。目が見えなくなってしまうし、汗が目にしみるので痛くってしょうがない。

飲み物も、1リットルパック最後の半分は必要である。これからは、干潟で作業する時は何かにつけて18リットのポリタンクに水を入れて、用意しておく。

「フロローネの小屋」はこれからは、日陰という効力を十二分に発揮するのだ。

「フロローネの小屋」と「バンブーハウス」は、お年寄り、女性、子供が優先である。バードウォッチャーの為ではない。

どんなにずぶぬれになり、頭から水をぶっかけても、カゼを引いたり寒くさえななければ、安心して、しかと思いついて干潟の中に入っていけるというもの。肌を刺すような、あの吹きさらしの冬に比べたら、これでも天国だ。

干潟は、夏がいちばん生き／＼している。とことん生命にあふれ、しかさにぎやかである。だから、我々を大いに生き／＼しようではないか。干潟の中でのたうちまわって、今年をじゃんじんと汚れ、「干潟浴」といこう。

アイスコーヒーや冷たいお茶を届けてくれる中村さん、どいつもありがとつ。

300号を記念する為、皆さんの意見・感想を特集したいと思います

ふかんど

第297号

1984.6.12

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津三十七 鶴荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 木村田三郎

会費 年2000

創立
1974.12.9

「ふかんど」を、

どう思いますか？

原稿をお寄せ下さい

「初めに、行動があった」とは、フラン
スの作家にして哲学者、政治家であったア
ンドレ・モーロワの言葉であります。谷
津干潟愛護研究会とこの会報「ふか
んど」は典型的な例と考えらるでしょう。

「ふかんど」が生まれる6年前、すで
に活発な力強い運動が積み重ねられており
ました。干潟の清掃をはじめ、テーブル・
ベンチ・あづま屋の作成、約3haの緑地と
カワハの緑道の確保、コアジサシ・シロチ
ドリ・コナドリの繁殖調査、看板・案内
板の作成、水路・護岸を中心とするゴミな
どの為の行政との交渉、松の木の植樹、草
刈、通信箱、干潟の絵図など・・・。
行事や活動のお知らせなどをすることな
がら、いろんな資料が散逸し始めました。
つまり、出来ただけ、会報「ふかんど」の
中に収めておくことを考えたからです。

又、干潟や埋め立て地での事々々、忘れ
ないうちに、憶えているうちに記録してお
こうと思いました。それと共に、その時
その場で思ったこと、感じたこと、心情な
どを記しておきたかったのです。

お、よそ、私達人間の脳裏に、胸中に断

え間なく浮かび、かつ過ぎ想いや、その心象
というものは、あたかも、庭先の木立に飛ん
で来た野鳥如きものに例えられます。フ
ッとやって来るとは、又、サツソフの間にか
飛んでいってしまうもの。あとで、と、そう
思っても、その時はもうどこへ行ったかわか
らないし、手遅れなものです。やって来た時
につかまえておかなくてはなりません。

判断やまとめは、

あとですればよいと思う

それが、「ふかんど」の、作成当初からの、
終始一貫した考えなのです。森田の、信念で
あります。だから、例え、まずくても、下手
くそでも、不完全でも、又、間違っていたも、
それは、それでいいのだと思っています。
後日のことは、すべて、「後日」に任すう
ではありませんか？。『生』の、赤裸の、有
りのまゝの姿を記したいと思っています。

『まず、生きる』ということですが、それに比
べたり、人生観や哲学、世の価値というもの
のすべてが、いかにかなりものでしょうか。
世から、人から与えられたものは又、後で、
世に、人さまにお返ししなければならぬと
のです。持っではいけません。

それじゃあ、「ふかんど」をただ書けばい
いのかと、問われたら、二者択一をとるなら、
後で批判されても、私は、いいと答えます。

なに、「ふかんど」への価値判断や意見、そのあやめ何ぞも持っていないなら、

己れをして、干潟それ自身になりきったら、自然保護とかその価値判断の如きは、着替への服みたいなもの。

クリーン作戦随感

渡り鳥、二つの死体

ふかんど時代を訪ねて

干潟という

生きたる絵模様織り続け
後世に贈りてようべし

雪をわす

氷を削りての氷拾い
ひとつひとつに心こめ
凍てつく干潟を踏み歩く
やがて来る春 楽しみに

ヨシ野なれ

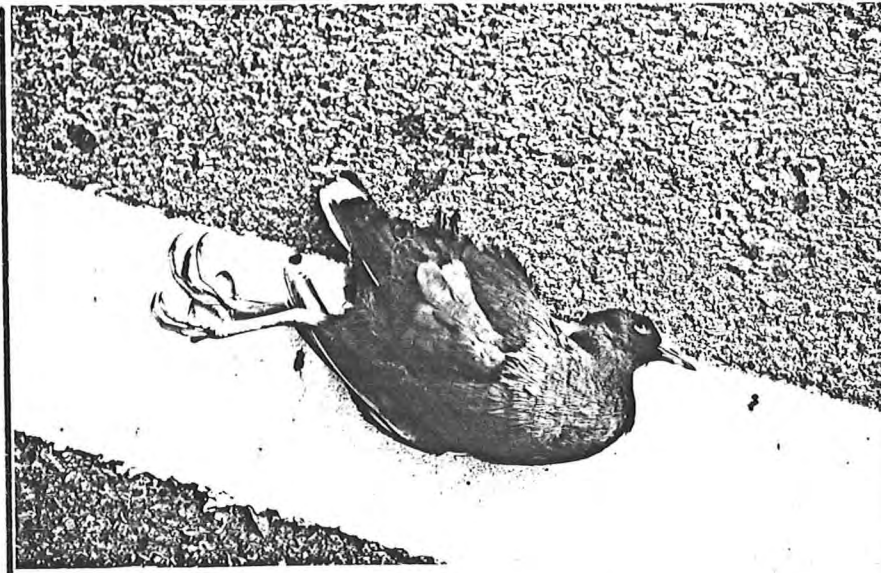
草の匂いの夏の日々
今はすずしき波うつ穂

アラジンの

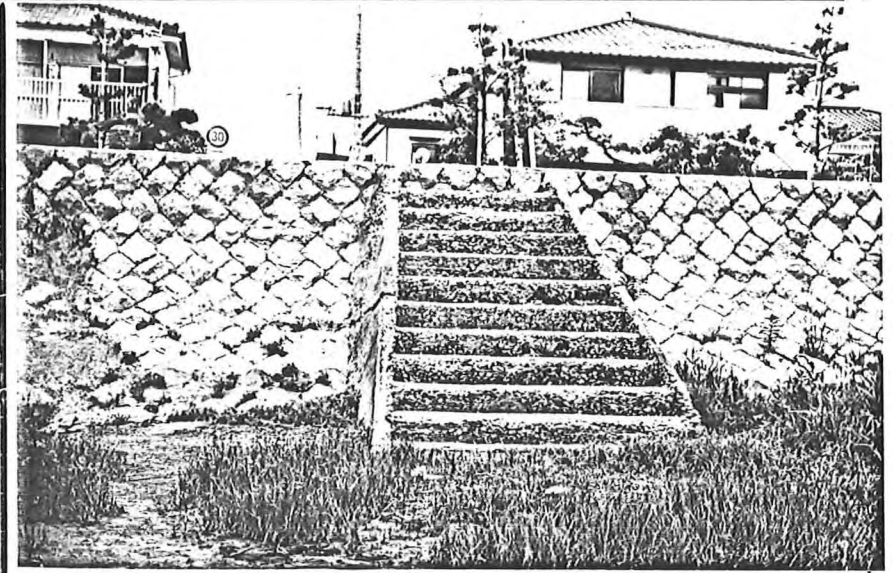
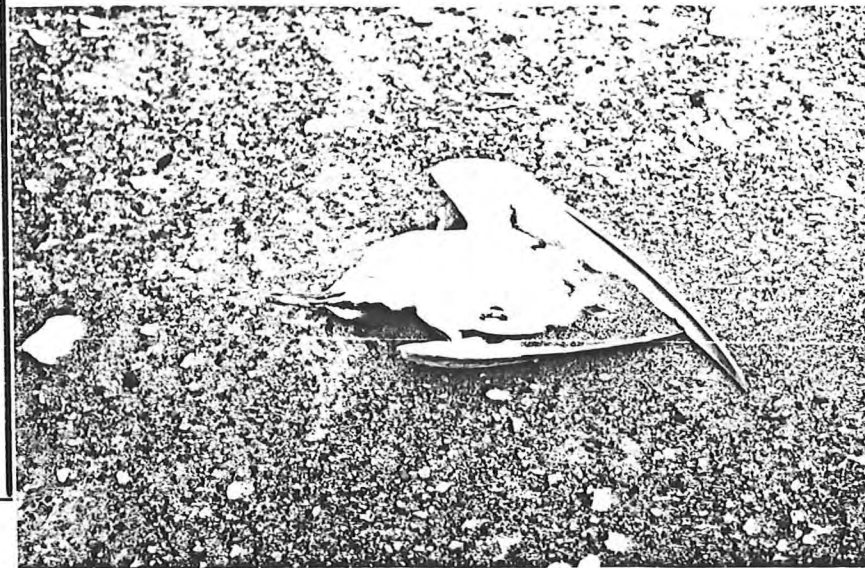
ランプの如きかパンのミミ
いろと手だても変えぬれば
干潟の絵模様とりどりに
見せて楽しや 今日もまた

陽だまりで

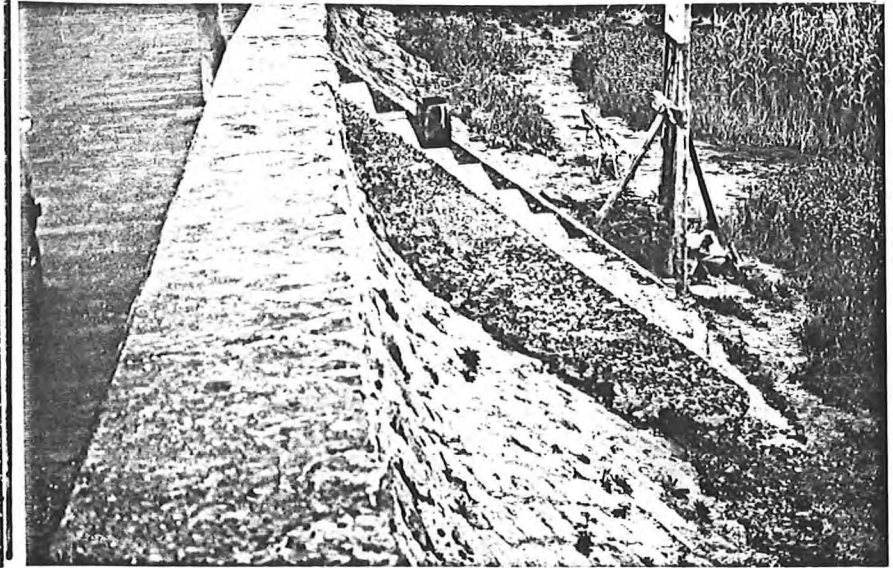
夏の王者のカマキリも
羽はボロボロ 死は近い



上の写真はバン、下はコアジサシである。バンは道路上で、コアジサシは、幕張A地区のコロニーで見つけた。
二つ共、傷らしいものは全くなかった。こういう光景は、いつものことであるが、特に繁殖期に多い。昨年は、幕張の海岸で大量のミズナギドリ^{ミズナギドリ}の死体が打ち上げられていた。人工物による死を増えるだろう。



この二つの階段は昔、今から20年くらい前まで、潮干狩に来た人達が海に出入りするのに使われていた。
谷津干潟の北側の堤防に作られていた。合計三つある。
堤防は、昭和24年に作られた。その頃は、この下に砂浜があった。更に、海草や藻が必厚く、巾広く積っていたもの。



ふかんど

第298号

1984.6.25

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津千七 船荘E号
電話〇四七四一五一一五〇四四
文責・森田三郎

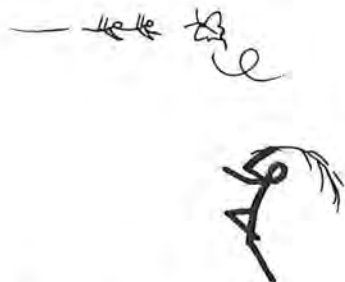
会費年2000円

創立
1974.12.9

伝え聞く

青の洞門 西の方
ふかんど太郎 谷津干潟
クリーン作戦 我らあり

カニの群
見渡す限りに
甲羅干し



アミ原は
蒸し風名残の
ゴミ拾い



雨降って
メダカの池のカエルさん
ゲロゲロ鳴いて
うれしそう

干潟への
地熱の如く湧きあが
燃ゆる想いに比べれば
夏の暑さは少なく
移り代りて過ぎりかん
なれども干潟の呼び声の
想いはつりて身に満ちん
我の我は我なりじ
"内なるふかんど"
まかするり



老人会の方を連れて、
コロニーと人工海浜(幕張)
に行つて来ました。
山中さんと島田さんです。お二
人とも、秋津田地に住んでいます。
天气の良し、楽しい一日でした。

↑写真真はコロニーの観察のあと、すぐそばの海浜でマテガイ掘りを見ていたところです。

「ひまわり会」と共に



・野鳥と干潟の観察 フローネの小屋・とん汁

5月20日。干潟にすぐ近い秋津田

地の子供会云「ひまわり」が干潟に
来ました。

子供が約100人、お母さんが20人ほどでし
た。小屋作りでは、ヨシを刈り、履ひ、束
ゆました。又、とん汁作りでは、野菜を

て見直しました。

きつと、小だんこうりつ事をやってはいな
りので、めずらしくもあり、興味をさそった
のでしよう。で、野鳥観察は、殆んどしっ
ちのけでした。やっぱり子供は、見ただけよ
りも、体を使うのを好むのでしようかね。

矢り、きざみ、水を履ひ、まきを削り、カマ
ドを作ることなど、とてもりっしょうけんめ
いでした。やり方さえ教えれば、中々どうし
て、よく動いていました。正直言って、改め

役員のお母さん達、ご苦労さまでした。



私達の運動が、児童文学のテーマ・舞台となりました

ふかんど

第299号

1984.7.12

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津三七七 鶴荘E号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責・森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

「とりとどせ」

ぼくたちの海」

PHP研究所

作者 岡本文良

さし絵 高田勲

7月28日発行 880円

「ハンカチ形の

海の思い出」

講談社

作者 森百合子

さし絵 岩淵慶造

すでに発売中 980円

× × × × × × ×

「とりとどせ」は、森田三郎が産まれた時からのもので、現在に至るまでの伝記みだしなものである。「ハンカチ形の」は、森田モデルにした創作である。

私達の運動が、児童文学の世界にまで広がったことは本当にうれしい。森田と、随筆や詩集、出来れば自己と書いてみたいと思っっている。

「ハンカチ形の海の思い出」の作者より

「ふかんど」も三日号をお出しにならぬさへうじ、おめじとうございませう。

一九八三年十月一日付朝日新聞「新人日記」の記事が縁となり、私は、谷津干潟と森田三郎さんに出会いました。

吉祥寺から津田沼まで何度も足を運び、個人的な森田さんとの会話や仲直りをくり返し、仲に入ると村さんにも最大の被害者さん水心も一冊の書き上げ出版いたしました。「ハンカチ形の海の思い出」講談社刊・児童書

美しい本を手にすれば、ただ、喜びだけがこみ上げてきて、昨春秋、一旦、執筆を断念した時の苦痛も、なにかしう中に消え去ります。

フィクションとし、書きあげましたが、白い鳥をいかに黒心と使用しようか効果的なように、フィクションとしたことになり、リアリティを強調してきた一冊となりました。

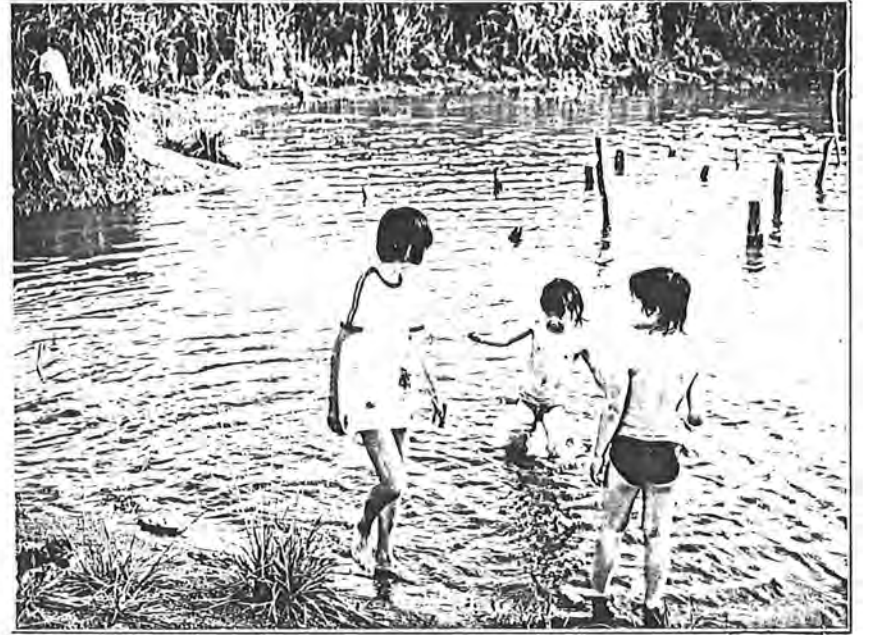
児童文学の創作が、際々、私に、私がこころがけようとは、尚として、真実さう。

これは、憎悪や闘争よりは、理解や平和が好まれる、取扱や排除よりは、共存や譲歩がよい、人いもうじは、いじしようか。こんな信念と情熱をもって、一編を書きあげました。

児童文学作家のこころから、お礼や共感の音が、多く、こせうれしいませう。会員や読者も、一度は、お目をお通し下さいませは、おもとたぶん、森田さん、心から嬉しく思っています。

旧児童文学

森田百合子



パンシシになつて

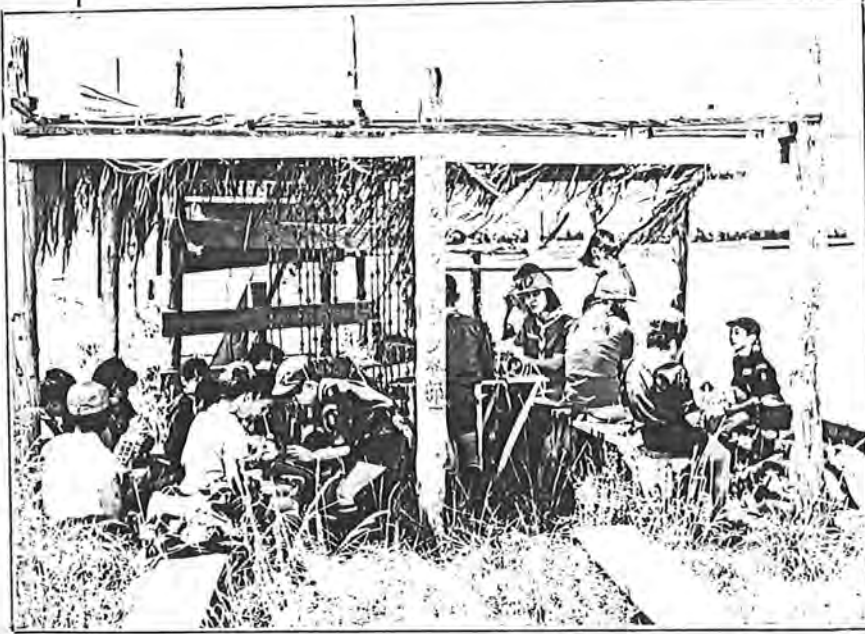
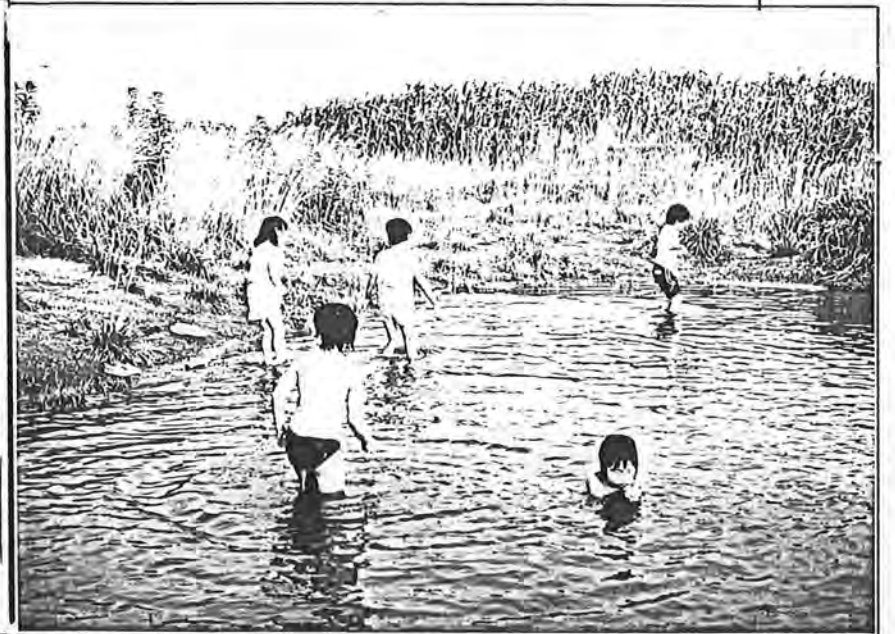
うだるような暑さの日でした。子供たちがひっきりなしにやって来るとは、水遊び、砂やドロ遊び

びをやっくいくのです。浅い為か、どうしてを入りたくなってしまふのでしよう。私達も、とっと池らしい池にしたりのですが、子供たちが来ることを考え、深くするわけにはいかなりのです。子供たちが水の中にいる時にも、マンマヤ赤トンボなどがツイツイと飛び交っていた。雨水でも、カニがずんでいりますのですよ。

皆んな、泥にまみれてカニ取り

生内さんをリーダーとして、少年少女29名、デนมザー（お母さんリーダー）9名でした。皆んな船橋市の団員で、カニを取るの初めてのことでした。

体操がニヘチゴガニヤコメツキガニが、ハサミを上下に振って体操しているのを見て、お母さん子供もびっくりして、又、よろこんでいました。野鳥観察など殆んどせず、ズボく干潟に入。マカニをつかまえたり、メダカの池で水遊びをしていました。



ふかんど

オ300号

1984.8.4

谷津干潟愛護研究会
 〒26 留志野市谷津三十七 鶴荘E号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責 森田三郎

会費年2000

創立 1974.12.4

この秋は

雨が嵐か知らぬほど

今日のつとめの田草とるなり

(古歌・よみ人知らず)

皆様の御蔭をささちまして
 「ふかんど」300号達成の事、
 謹んで御報告申し

上げます。

「ふかんど」の誕生のそれは、あたかも、
 全力で疾駆する馬上から、武人の、矢を放
 つが如きの事物の様の流れから生まれました。

昭和55年6月3日。運動を始めてから6
 年と過ってからである。「ふかんど」に先
 だつ3ヶ月前の3月に、従来から行なわれ
 ていた「ゴミ拾い」が、「谷津干潟クリー
 ン作戦」という名を付けて展開されてきた。
 この頃にはすでに、テーブルヤベンチは
 作り終え、約3haの草地と巾7mの緑道は
 確保され、トーテムポールやあずま屋、看
 板、案内板が作られ、埋め立て地側(県)
 のゴミ搬出ルートが放されてきた。

干潟に虫を放す、不法投棄のゴミ。象に
 アリが喰らいつくが如く挑み、市、国、京

成電鉄、住民と、ゴミをめぐってクリーン作
 戦と日夜体当りで邁進し始めていた最中に、
 「ふかんど」は発行されたのである。

「ふかんど」は、手記が日記、あるいは備
 忘録みたいなものでいいと思っっている。

「生」の、赤裸なものであればよい。時に
 は、なぐり書きのようなものでよい。不細
 工で、不恰好で、ごつくとした荒削りなと
 のでよい。原油が、原石の如きでよい。オノ
 でぶった切った木の、丸太のそれである。

自他ともに、移りゆき、変転する諸法の只
 中で、今在る我々の成し得ることは、かくし
 て、かく想ったということのみではないだろ
 うか?。日本の片隅の、ここ谷津干潟でのこ
 とも同じこと。その刻印、その小まごく一部分
 しか残せないのである。おおよそ、判断と評
 価はすべて、後世に託すものでしかないから。

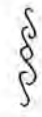


ヒバリ、シロチドリのヒナ、オオミズ
 ナギドリを、慰霊碑に埋めてやりました。

写真 は 中村さん 母子です。

事務局 0474・51・7076 中村

「文集」、ありがとう



谷津干潟自然緑地の草(オニウシノケグサ)で草履が出来ました

文集は30人の子供の感想文。

去る5月20日に、子供会「ひまわり」の皆さんが谷津干潟で
すごしたこと。その感想文が文集
となって、愛護研究会に届け
てくれました。ありがとう。

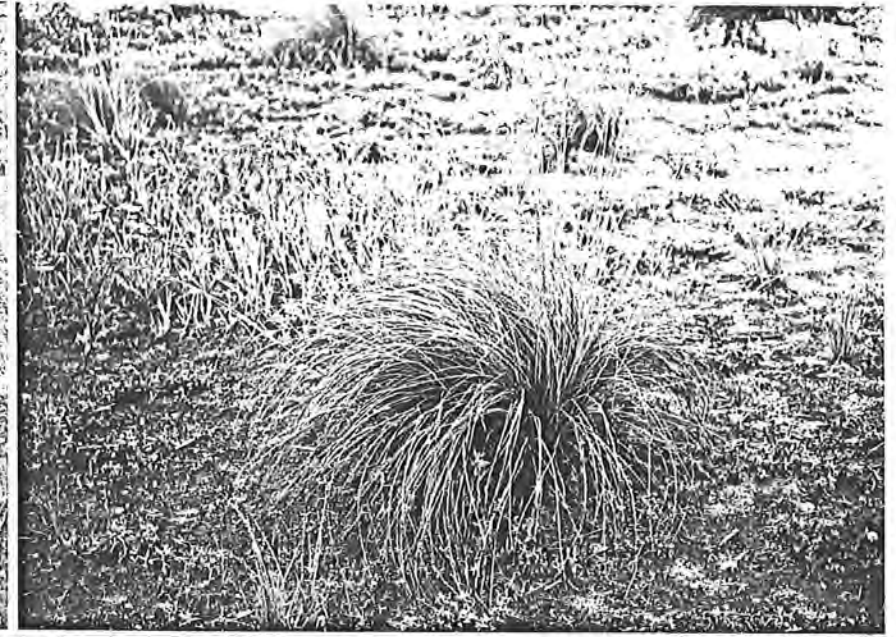
よく書いて、
作ってくれたね

「お守り」の代りにしています

この草履を作られたのは、会員の山中さん
(秋津1-3-7在住)です。山中さんは又、
休日ごとに干潟の空にひるがえる、“幸福の黄

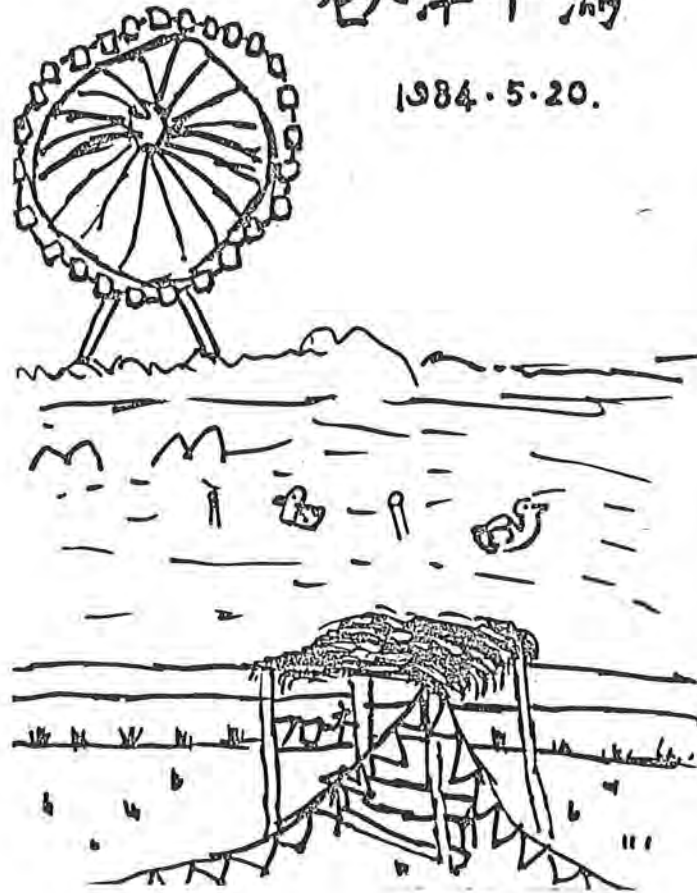
色いハンカチの旗、を作って頂いたこともある
方です。今までに2足を作ってくれました。

タクシーの運転をしている森田は、これを
いつも「お守り」としています。山中さん、
ありがとうございます。会員にも見せています。



ひまわり会と
谷津干潟

1984.5.20.



走りまわっています
タクシー運転が明け番の日
は、必ずこんなふうなことを
している。水路と干潟のパト
ロールも兼ねています。
そして又、休日には、会員
の方々と、ゴミを拾い集め、
袋に入れ、すぐ積めるように
手伝ってくれているのです。



ホンダライフ49年型 15万KM 今尚健在!